

2 年 次 生

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	スコアリーディング I	高橋伸哉

科目概要

この科目では、本科1年次に履修した和声法の基礎的範囲の理解をもとに、様々な借用和音について学びます。借用和音を含む四声体和声の分析力をしっかりと身に付けましょう。

到達目標

- 1クォーター
準固有和音とV度V度の和音を含む、四声体和声分析
- 2クォーター
II度V度、IV度V度、VI度V度の各和音を含む、四声体和声分析

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声法の復習	スコアリーディングの学習を始めるにあたり、1年次に学習した和声法の復習を実施します。
第2回	準固有和音	借用和音の一種である、準固有和音について学びます。
第3回	V度V度の和音 (基礎編)	借用和音の一種であるV度V度の和音について、基礎的事項を学びます。
第4回	V度V度の和音 (根音省略形、V度V度の9)	V度V度の様々なバリエーション(根音省略形、V度V度の9)について学びます。
第5回	V度V度の和音 (下方変位)	V度V度のさらなるバリエーションである、下方変位について学びます。
第6回	練習問題(試験対策)	次週のクォーター末試験に向けて、練習問題を実施します。
第7回	筆記試験	準固有和音とV度V度の諸和音を含む、四声体和声分析の筆記試験を実施します。

クォーター末試験評価方法

- 筆記試験: 80% ※分析記号類の書き方(正確さ、見やすさ、丁寧さ)も採点対象
- 出席状況および受講態度: 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1クォーター末試験答案返却、解説	1クォーター末試験の答え合わせを行うほか、復習問題も実施します。
第2回	II度V度の和音	借用和音の一種である、II度V度の和音について学びます。
第3回	IV度V度の和音	借用和音の一種である、IV度V度の和音について学びます。
第4回	VI度V度の和音	借用和音の一種である、VI度V度の和音について学びます。
第5回	借用和音のまとめ	これまでに学習した様々な借用和音について総まとめを行い、理解を深めます。
第6回	練習問題	様々な借用和音を含む、四声体和声分析の練習問題を実施します。
第7回	練習問題(試験対策)	次週の春学期末試験に向けて、練習問題を実施します。
第8回	筆記試験	春学期の学習範囲で、四声体和声分析の筆記試験を実施します。

学期末試験評価方法

- 筆記試験: 80% ※分析記号類の書き方(正確さ、見やすさ、丁寧さ)も採点対象
- 出席状況および受講態度: 20%

管弦打楽器学科Ⅱ

学期	科目名	担当講師
秋	スコアリーディングⅡ	高橋伸哉

科目概要

この科目では、これまでに習得した和声分析力を駆使して、様々な作曲家による室内楽作品やオーケストラ作品、吹奏楽作品を分析します。これらの楽曲分析を通して音楽作品への理解を深め、演奏者としての音楽表現力の向上を目指しましょう。

到達目標

- 様々な編成によるスコアを使った、楽曲分析力の習得
- 楽曲分析の結果を言葉によって説明するための、文章力の向上

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	短調の借用和音	短調の借用和音について、よく使われるものに範囲を絞って学びます。
第2回	非和声音	様々な非和声音について学びます。
第3回	楽曲分析のポイント	借用和音の効果をはじめ、楽曲分析の様々なポイントについて学びます。
第4回	楽曲分析実習(バロック)	バロック時代の作品のフルスコアを使って、楽曲分析を実習します。
第5回	楽曲分析実習(古典派)	古典派時代の作品のフルスコアを使って、楽曲分析を実習します。
第6回	楽曲分析実習(ロマン派)	ロマン派時代の作品のフルスコアを使って、楽曲分析を実習します。
第7回	筆記試験	春学期の学習範囲で、既製曲の楽曲分析試験を実施します。

クォーター末試験評価方法

- 筆記試験: 80% ※記述問題の文章力も大きな採点対象
- 出席状況および受講態度: 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3クォーター末試験答案返却、解説	3クォーター末試験の答え合わせを行うほか、復習問題も実施します。
第2回	ゼクエンツ	様々な楽曲内で使われている、ゼクエンツについて学びます。
第3回	保続音	様々な楽曲内で使われている、保続音について学びます。
第4回	教会旋法	教会旋法について学習するほか、近代以降の諸作品に使われている旋法の実例についても学びます。
第5回	転調	転調のしくみを、四声体和声の中で学びます。
第6回	楽曲分析実習(転調)	転調を含む既製曲のフルスコアを使って、楽曲分析を実習します。
第7回	楽曲分析問題(試験対策)	次週の秋学期末試験(学年末試験)に向けて、楽曲分析問題を実施します。
第8回	筆記試験	秋学期の学習範囲で、楽曲分析の筆記試験を実施します。

学期末試験評価方法

- 筆記試験: 80% ※記述問題の文章力も大きな採点対象
- 出席状況および受講態度: 20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ソルフェージュⅢ	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。
到達目標
1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step9 & 1Qのまとめ)
クォーター末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step10) & 2Qのまとめ
学期末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ソルフェージュⅣ	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。
到達目標
1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step11) & 3Qのまとめ
クォーター末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step12) & 4Qのまとめ
学期末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も大いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(フルート)	野崎和宏

科目概要

一年次既習のベーシクトレーニングⅠ・Ⅱの延長線上の授業として、基本の完璧なテクニックと、さらに高度な応用力の修得を目指します。

到達目標

ヴィブラートの奏法とさまざまな音楽表現の修得が目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	年間授業計画の説明。一年次の復習。
第2回	柔軟性(音階)	音階練習の応用 / Reichert Op.5 & 6, G.Gilbert
第3回	柔軟性(アルペッジョ)	アルペッジョの応用 / Gilbert Technacal Flexibility 他
第4回	音の発展(ヴィブラート)	ヴィブラートの歴史と用法
第5回	ヴィブラートの基本訓練	ヴィブラート訓練
第6回	実践課題	楽曲のサンプルを使ったヴィブラートの用法
第7回	クォーターの総括	実技試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、実技到達度と出席率、授業態度も参考に総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	前クォーターの復習
第2回	音楽表現1(弱奏)	実際の独奏曲、室内楽曲の抜粋を使用 / Saint-Saens
第3回	音楽表現2(デリケート)	実際の独奏曲、室内楽曲の抜粋を使用 / Ibert, Debussy
第4回	音楽表現3(濃い表現)	実際の独奏曲、室内楽曲の抜粋を使用 / Enesco, Schumann
第5回	音楽表現4(強奏)	実際の独奏曲、室内楽曲の抜粋を使用 / Franck, 他
第6回	音楽表現5(柔軟性)	実際の独奏曲、室内楽曲の抜粋を使用 / Prokofiev, 他
第7回	音楽表現6(コントラスト)	実際の独奏曲、室内楽曲の抜粋を使用 / Widor, Brahms
第8回	春学期の総括	実技試験

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、実技到達度と出席率、授業態度も参考に総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(フルート)	野崎和宏

科目概要

2年間の授業の総括。さまざまな音楽への適応能力を身につけます。

到達目標

さまざまな特殊奏法と音楽様式への適応能力を修得することが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	特殊(現代)奏法1	フラッタータンギング
第2回	特殊(現代)奏法2	倍音の応用
第3回	特殊(現代)奏法3	重音奏法
第4回	応用・補充課題1	Moyse / Tone Development through interpretation
第5回	応用・補充課題2	Graf / Check-Up
第6回	応用・補充課題3	Artaud / Flute au present, Dick / The other flute
第7回	クォーターの総括	実技試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、実技到達度と出席率、授業態度も参考に総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様式への対応1	バロック・古典
第2回	様式への対応2	装飾法
第3回	様式への対応3	カデンツァ
第4回	様式への対応4	ロマン派
第5回	様式への対応5	近・現代
第6回	様式への対応6	移調
第7回	補足訓練	一年間の授業課題の中から、各自の進路に必要な課題
第8回	学年末総括	実技試験

学期末試験評価方法

基礎的技術練習の成果と実際の楽曲への反映度を評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(オーボエ・ファゴット)	多田 逸左久

科目概要

楽器を演奏するために必要不可欠な、ロングトーン・音階・分散和音を、習熟を目指して演習します。I・IIクォーターでは、ロングトーンと#♭3つまでの調性の音階と主和音分散和音を、2回繰り返して演習します。
加えて、それぞれの楽器のベーシックなエチュードの中から、相対する調性の曲を都度演習します。

到達目標

音階・分散和音については、テンポ♩=60(1回目)及び♩=80(2回目)を目標とします。
エチュードについては、相応なテンポで、表情豊かな演奏を目指します。
受講に当たっては、予習は元より復習が重要です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス ハ長調・イ短調(1回目)	I・IIクォーターの授業の指針を説明 ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第2回	ヘ長調・ニ短調(1回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第3回	ト長調・ホ短調(1回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第4回	変ロ長調・ト短調(1回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第5回	ニ長調・ロ短調(1回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第6回	変ホ長調・ハ短調(1回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第7回	イ長調・嬰へ短調(1回目) Iクォーターの総括	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード 到達度確認テスト

クォーター末試験評価方法

出席率(50%)・平常点(10%)・実技試験(40%)を目安に、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ハ長調・イ短調(2回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第2回	ヘ長調・ニ短調(2回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第3回	ト長調・ホ短調(2回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第4回	変ロ長調・ト短調(2回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第5回	ニ長調・ロ短調(2回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第6回	変ホ長調・ハ短調(2回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第7回	イ長調・嬰へ短調(2回目)	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第8回	春学期の総括	IIクォーター末実技試験予行演習 新曲初見視奏・音階・主和音分散和音・エチュード

学期末試験評価方法

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(オーボエ・ファゴット)	多田 逸左久

科目概要

楽器を演奏するために必要不可欠な、ロングトーン・音階・分散和音を、習熟を目指して演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、ロングトーンと#♭3つまでの調性の属七和音分散和音と三度音階及び#♭4～5の調性(含平行調)の音階と主和音分散和音を演習します。
 加えて、それぞれの楽器のベーシックなエチュードの中から、相対する調性の曲を都度演習します。

到達目標

音階・分散和音については、テンポ♩=60を目標とします。
 エチュードについては、相応なテンポで、表情豊かな演奏を目指します。
 受講に当たっては、予習は元より復習が重要です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス ハ長調・イ短調	Ⅲ・Ⅳクォーターの授業の指針を説明 ロングトーン・属七和音分散和音・三度音階 + 相対エチュード
第2回	ヘ長調・ニ短調	ロングトーン・属七和音分散和音・三度音階 + 相対エチュード
第3回	ト長調・ホ短調	ロングトーン・属七和音分散和音・三度音階 + 相対エチュード
第4回	変ロ長調・ト短調	ロングトーン・属七和音分散和音・三度音階 + 相対エチュード
第5回	ニ長調・ロ短調	ロングトーン・属七和音分散和音・三度音階 + 相対エチュード
第6回	変ホ長調・ハ短調	ロングトーン・属七和音分散和音・三度音階 + 相対エチュード
第7回	イ長調・嬰ヘ短調 Iクォーターの総括	ロングトーン・属七和音分散和音・三度音階 + 相対エチュード 到達度確認テスト

クォーター末試験評価方法

出席率(50%)・平常点(10%)・実技試験(40%)を目安に、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	変イ長調・ヘ短調	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第2回	ホ長調・嬰ハ短調	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第3回	変ニ長調・変ロ短調	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第4回	ロ長調・嬰ト短調	ロングトーン・音階・主和音分散和音 + 相対エチュード
第5回	分散和音の応用形(1)	ハ長調・イ短調(3回目) I7の和音 + V9の和音(根音省略形)
第6回	分散和音の応用形(2)	ヘ長調・ニ短調(3回目) I7の和音 + V9の和音(根音省略形)
第7回	分散和音の応用形(3)	ト長調・ホ短調(3回目) I7の和音 + V9の和音(根音省略形)
第8回	一年間の総括	新曲初見視奏・音階・主和音分散和音・エチュード

学期末試験評価方法

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(クラリネット)	斎藤雄介

科目概要

楽器を演奏する上で、ロングトーン・スケイル・アルペジオ等の演習が必要不可欠である事を理解し、習熟する事を目的とします。1・2クォーターではスケイルと主和音アルペジオの習得を目指します。テンポは4分音符=80を第一目標とします。受講に当たっては、予習・復習が求められます。

到達目標

全ての調のスケイルと主和音のアルペジオの習得が目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	I・IIクォーターの授業の指針を説明
第2回	ハ長調・イ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第3回	ヘ長調・ニ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第4回	ト長調・ホ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第5回	変ロ長調・ト短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第6回	ニ長調・ロ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第7回	Iクォーターの総括	到達度確認テスト

クォーター末試験評価方法

「継続は力なり！」出席率を重視し、平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	変ホ長調・ハ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第2回	イ長調・嬰ヘ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第3回	変イ長調・ヘ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第4回	ホ長調・嬰ハ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第5回	変ニ長調・変ロ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第6回	ロ長調・嬰ト短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第7回	変ト長調・嬰ニ短調	ロングトーン・スケイル・主和音アルペジオ
第8回	春学期の総括	到達度確認テスト

学期末試験評価方法

出席率50%・平常点10%・実技試験40%を目安に、総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(クラリネット)	斎藤雄介

科目概要

楽器を演奏する上で、ロングトーン・スケール・アルペジオ等の演習が必要不可欠である事を理解し、習熟する事を目的とします。3・4クォーターでは属七アルペジオと第三音階の習得を目指します。テンポは4分音符=80を第一目標とします。受講に当たっては、予習・復習が求められます。

到達目標

全ての調の属七アルペジオと第三音階の習得が目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	Ⅲ・Ⅳクォーターの授業の指針を説明
第2回	ハ長調・イ短調	ロングトーン・属七・三度
第3回	ヘ長調・ニ短調	ロングトーン・属七・三度
第4回	ト長調・ホ短調	ロングトーン・属七・三度
第5回	変ロ長調・ト短調	ロングトーン・属七・三度
第6回	ニ長調・ロ短調	ロングトーン・属七・三度
第7回	Ⅲクォーターの総括	到達度確認テスト

クォーター末試験評価方法

出席率・平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	変ホ長調・ハ短調	ロングトーン・属七・三度
第2回	イ長調・嬰ヘ短調	ロングトーン・属七・三度
第3回	変イ長調・ヘ短調	ロングトーン・属七・三度
第4回	ホ長調・嬰ハ短調	ロングトーン・属七・三度
第5回	変ニ長調・変ロ短調	ロングトーン・属七・三度
第6回	ロ長調・嬰ト短調	ロングトーン・属七・三度
第7回	変ト長調・嬰ニ短調	ロングトーン・属七・三度
第8回	秋学期の総括	到達度確認テスト

学期末試験評価方法

出席率50%・平常点10%・実技試験40%を目安に、総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(サクソフォン)	原 博巳

科目概要

1年次の「ベーシクトレーニングⅠ・Ⅱ」の積み重ねとして、基本テクニックの定着と、高度な応用力を学びます。

到達目標

より高い技術を身に付けるために、基礎力を定着させ応用力を付けることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入	自己紹介(経歴等の確認) 固定した音域の音階
第2回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	Exercices Mécaniques vol.3 p1 / Arpèges: 一度逆打ち [音源鑑賞]George Bizet: L'Arlésienne suite n° 1
第3回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上 p2 / gammes: fa dièse majeur / 音域を固定した音階: majeur, mineur[音源鑑賞]Pierre Vellones: Rapsodie op.92
第4回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上p3 / 音域を固定した音階: mineur [音源鑑賞]Alexandre Glazounov: Concerto
第5回	基礎技術の定着・練習方法の習得	同上p4 / 音域を固定した音階: majeur マウスピースパッチについて
第6回	基礎技術の定着・練習方法の習得	同上p5 / 音階、分散和音(Es, A) Pierre-Max Dubois: Suite française
第7回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上VI / 音階、分散和音(グレード試験に向けて) [音源鑑賞]Jacques Ibert: Ouverture de fête
クォーター末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎技術の向上と練習方法の習得	Exercices Mécaniques vol.3 VII マウスピースについて / 音階: 全調性、全音域(「レ」から)
第2回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上VIII / 音階: 支点移動(C-g) [音源鑑賞]Jeanine Rueff: Sonate
第3回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上IX / 音階: 支点移動(a,e) [音源鑑賞]Pierre Jodlowski: Mixtion
第4回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上X [音源鑑賞]Jacques Ibert: Concertino da camera
第5回	基礎技術の向上・練習方法の習得 音楽的解釈・理解の研究	フレージング考察 (Lacour:n° 2 «50 étude faciles et progressives»)
第6回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	Exercices d'Intonation A-2 [音源鑑賞]Edison Denisov: Sonate
第7回	基礎技術の向上・練習方法の習得 特殊奏法の研究	Exercices d'Intonation B-3 ダブルタンギング①
第8回	春学期末総括	実技試験
学期末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(サクソフォン)	原 博巳

科目概要

2年間の総括に位置付く、最終クォーターでは、1年次から積み上げた技術力が音楽表現等の適応力へと結びつくよう学んでいきます。

到達目標

サクソフォン奏者に必須である特殊奏法を身に付け、また様々な音源鑑賞等から、より説得力のある演奏家へステップアップしていくことが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	後期導入	春学期末(試験)の総括と後期の内容確認・計画
第2回	より高い技術への発展と定着 特殊奏法の研究	倍音練習① ダブルタンギング②
第3回	より高い技術への発展と定着 特殊奏法の研究	Exercices d'Intonation C-1 ダブルタンギング③
第4回	より高い技術への発展と定着	同上C-6 音階(全調性)、半音階
第5回	より高い技術への発展と定着	同上D-1 半音階、音階(全調性)
第6回	より高い技術への発展と定着 レパートリー鑑賞・研究	Exercices d'Intonation: tierce mineure:D-1／半音階、長調 [音源鑑賞]Alexandre Tcherepnine: Sonatine sportive
第7回	より高い技術への発展と定着	同上E-2 同主調の音階、分散和音
クォーター末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	確実性と高度なテクニックの定着	同上E-3 音階、分散和音(全調性)
第2回	確実性と高度なテクニックの定着 レパートリー鑑賞・研究	同上E-6 [音源鑑賞]Heitor Villa-Lobos: Sextuor mystique
第3回	確実性と高度なテクニックの定着 レパートリー鑑賞・研究	Exercices d'Intonation: E-3,4 [音源鑑賞]Ingolf Dahl: Concerto
第4回	確実性と高度なテクニックの定着 レパートリー鑑賞・研究	旋律的短音階 a,d,e／二重奏: Jacques Arcadelt: Ave maria [音源鑑賞]Isaac Albéniz: Córdoba, Jean Rivier: Grave et presto
第5回	特殊奏法の研究 レパートリー鑑賞・研究	グリッサンド①／二重奏: Jacques Arcadelt: Ave maria [音源鑑賞]Henri Tomasi: Ballade
第6回	特殊奏法の研究 レパートリー鑑賞・研究	アルティッシモ① [音源鑑賞]Régis Campo: Zapp'art
第7回	確実性と高度なテクニックの定着	アルティッシモ② 敏しよ性を上げる練習
第8回	学年末総括	実技試験
学期末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(ホルン)	下田 太郎

科目概要

ホルンという楽器の歴史や構造、そして技術向上のための基本奏法を理解し、楽曲作品演奏に応用する。

到達目標

様々なパターンの練習方法から基礎練習、呼吸、姿勢、音を作り、作曲家が求めるホルンの音を作っていく。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	年間授業計画通達	授業の目的を説明し、2年目としてより高度な技術を身に付けるための内容を演奏します。
第2回	ホルンの歴史	ホルンの歴史や奏法、各国でのホルンの楽曲作品から楽器の進化をレクチャーします。
第3回	中～低音域の再構築	オーケストラの楽譜を元に低音域のコントロール法を訓練します。
第4回	オーケストラスタディ1	オーケストラの1番パートの譜面を演奏し、移調読みに慣れて頂きます。
第5回	オーケストラスタディ2	オーケストラの2番・4番のパート譜を使い低音域でしっかりとした響きと音量をコントロールすることを習得します。
第6回	オーケストラスタディ3	オーケストラのパート譜面を使ってホルンセクションとしての音のスタイルの変化を演奏して頂きます。
第7回	一回目から六回目までの内容の理解度の確認	一人ずつ呼吸、姿勢を確認し、スケールを演奏しながら低音域から高音域までを演奏して頂きます。

クォーター末試験評価方法

授業の理解度と取り組みの成果を一人ずつ実際に演奏します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	各国のホルン奏者の演奏スタイル	CDやDVDなどで様々な国の奏者の作品演奏スタイルを勉強します。
第2回	アンサンブル1	譜面の正確なリズムや強弱を確認し、作品を作っていきます。
第3回	アンサンブル2	全員での合奏をしながら各パートの仕事を理解します。
第4回	ナチュラルホルンの奏法の理解	ヴァルブを使わずに、いわゆるナチュラルホルン奏法を実際に演奏して古典時代の作品を演奏してみます。
第5回	初見演奏1	ソロ曲などの譜面を初見で演奏し、初見演奏のコツを理解します。移調読みにも対応できるようにします。
第6回	初見演奏2	アンサンブル曲を用いて初見の演奏を実施します。へ音記号の理解も同時に行います。
第7回	グループ別にアンサンブル曲を練習	グループ分けをし、アンサンブル曲を紹介し、練習をしますグループ発表。
第8回	アンサンブル曲演奏発表	第七回目で練習したアンサンブル曲を発表します。

学期末試験評価方法

約1年半の授業での成果を演奏で発表します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(ホルン)	下田 太郎

科目概要

ホルンという楽器の歴史や構造、そして技術向上のための基本奏法を理解し、楽曲作品演奏に応用する。

到達目標

様々なパターンの練習方法から基礎練習、呼吸、姿勢、音を作り、作曲家が求めるホルンの音を作っていく。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	初見演奏3	ソロ曲やエチュードの難易度が少し上がります。
第2回	初見演奏4	デュエット曲やトリオなどの作品の初見力を高めます。
第3回	初見演奏5	四～六重奏での初見力を高めます。
第4回	読み替え(移調トレーニング1)	移調読みの仕組みを理解し、古典時代のホルンの使われ方を理解します。
第5回	読み替え(移調トレーニング2)	ベートーヴェンなどのオーケストラのパート譜を使い、移調読みの力を高めます。
第6回	読み替え(移調トレーニング3)	後期ロマン派のオーケストラ作品のパート譜を使い、移調読みの力を高めます。
第7回	小テスト	第1回～第6回までの理解度の確認として実際に演奏します。

クォーター末試験評価方法

授業の理解度と取り組みの成果を一人ずつ実際に演奏します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3クォーターの復習	ここまでの授業の理解度を再確認します。
第2回	オーケストラスタディ1	様々な曲オーケストラパート譜を使って技術力と演奏力を高めます。
第3回	オーケストラスタディ2	上下各パートを回して、ヘ音記号や低音域での演奏力を高めます。
第4回	ホルンアンサンブル1	2～3チームに別れてアンサンブル曲を練習します。
第5回	ホルンアンサンブル2	第4回で練習したアンサンブル曲を発表します。
第6回	ホルンアンサンブル3	全員でのホルンアンサンブルの練習をします。
第7回	ホルンアンサンブル4	全員でのホルンアンサンブルの練習・発表をします。
第8回	学年末試験	年間を通じた授業内容の理解度をペーパーテストで確認します。

学期末試験評価方法

ペーパーテストを実施し、楽譜の移調や楽器の構造の理解度を確認します

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(トランペット)	宮澤聰宏

科目概要

- ①デイリートレーニングの確立と奏法の研究
- ②基礎技術の確認(音階・長調・短調の徹底)
- ③アンサンブルの導入(作品を演奏しながらアンサンブルの基礎を学ぶ)
- ④作品研究・音楽スタイル、音楽史の知識など

到達目標

各自、デイリートレーニングの確立とスケールの理解
初見力とアンサンブルテクニックの向上

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業の説明
第2回	ウォームアップ1&スケール	呼吸法、マウスピースの練習
第3回	ウォームアップ2&スケール	ロングトーン、ダイナミクスの練習
第4回	ウォームアップ3&スケール	倍音、リップスラー、フレキシビリティの練習
第5回	ウォームアップ4&スケール	タンギングの練習
第6回	まとめ	各自の練習メニューと課題
第7回	試験	演奏試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	アンサンブルの基礎1	デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
第3回	アンサンブルの基礎2	デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
第4回	アンサンブルの実習1	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第5回	アンサンブルの実習2	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第6回	アンサンブルの実習3	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第7回	まとめ	演奏発表
第8回	試験	レポート提出、演奏試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(トランペット)	宮澤聰宏

科目概要

- ①オーケストラスタディを学ぶ
- ②作品研究、歴史的意義、金管楽器の特徴について学ぶ
- ③トランスポーズ(読み替え)
- ④セクションでのアンサンブル

到達目標

トランスポーズ・音程・ダイナミクス・様式感の理解

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	トランスポーズ1	読み替えの方法
第3回	トランスポーズ2	各種Clefの読み方
第4回	オーケストラスタディ1	オーケストラの旋律を体験
第5回	オーケストラスタディ2	オーケストラの旋律を体験
第6回	まとめ	mock auditionの体験
第7回	試験	レポートもしくは実技試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	オケスタ(セクション1)	セクションとしての演奏
第3回	オケスタ(セクション2)	サウンドの統一
第4回	オケスタ(セクション3)	スタイルの統一
第5回	移調アンサンブル1	バロック以前の作品で合奏
第6回	移調アンサンブル2	バッハのオルガン曲を合奏
第7回	移調アンサンブル3	古典派以降の作品を合奏
第8回	試験	レポートもしくは実技試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(トロンボーン)	山口隼士

科目概要

- ①デイリートレーニングの確立と奏法の研究
- ②基礎技術の確認(音階・長調・短調の徹底)
- ③アンサンブルの導入(作品を演奏しながらアンサンブルの基礎を学ぶ)
- ④作品研究・音楽スタイル、音楽史の知識など

到達目標

各自、デイリートレーニングの確立とスケールの理解
初見力とアンサンブルテクニックの向上

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業の説明
第2回	ウォームアップ1&スケール	呼吸法、マウスピースの練習
第3回	ウォームアップ2&スケール	ロングトーン、ダイナミクスの練習
第4回	ウォームアップ3&スケール	倍音、リップスラー、フレキシビリティの練習
第5回	ウォームアップ4&スケール	タンギングの練習
第6回	まとめ	各自の練習メニューと課題
第7回	試験	演奏試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	アンサンブルの基礎1	デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
第3回	アンサンブルの基礎2	デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
第4回	アンサンブルの実習1	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第5回	アンサンブルの実習2	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第6回	アンサンブルの実習3	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第7回	まとめ	演奏発表
第8回	試験	レポート提出、演奏試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(トロンボーン)	山口隼士

科目概要

- ①オーケストラスタディを学ぶ
- ②作品研究、歴史的意義、金管楽器の特徴について学ぶ
- ③トランスポーズ(読み替え)
- ④セクションでのアンサンブル

到達目標

トランスポーズ・音程・ダイナミクス・様式感の理解

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	トランスポーズ1	読み替えの方法
第3回	トランスポーズ2	各種Clefの読み方
第4回	オーケストラスタディ1	オーケストラの旋律を体験
第5回	オーケストラスタディ2	オーケストラの旋律を体験
第6回	まとめ	mock auditionの体験
第7回	試験	レポートもしくは実技試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	オケスタ(セクション1)	セクションとしての演奏
第3回	オケスタ(セクション2)	サウンドの統一
第4回	オケスタ(セクション3)	スタイルの統一
第5回	移調アンサンブル1	バロック以前の作品で合奏
第6回	移調アンサンブル2	バッハのオルガン曲を合奏
第7回	移調アンサンブル3	古典派以降の作品を合奏
第8回	試験	レポートもしくは実技試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ (Euph.Tub.)	大山智

科目概要

基本奏法を学び様々な演奏に対応できるスキルを身につける。

到達目標

春学期はスケールの応用を学ぶ。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス C-dur a-moll	授業内容の説明
第2回	F-dur d-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第3回	B-dur g-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第4回	Es-dur c-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第5回	As-dur f-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第6回	Des-dur b-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第7回	Ges-dur es-moll 1クォーターのまとめ	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。

クォーター末試験評価方法

経験してきたスケールをどの程度習得できたか確認をする。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前回までの確認	1クォーターで行ったスケールの習得度を再確認。
第2回	G-dur e-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第3回	D-dur h-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第4回	A-dur fis-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第5回	E-dur cis-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第6回	H-dur gis-moll	様々なスケールやアルペジオ、その調のエチュードなどを使用する。
第7回	アルペジオ	スケールでも使用したアルペジオに特化したトレーニング
第8回	1年の総括	全てのスケールのチェック

学期末試験評価方法

出席率(50%)+実技(50%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ (Euph.Tub.)	大山智

科目概要

様々なエチュードやアンサンブルを通して必要な技術を習得する。

到達目標

個人の技術だけではなく人と合わせる技術という点も理解できるようにする。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス グループ割	授業の説明とアンサンブルのグループ分け
第2回	様々なアーティキュレーション① アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第3回	様々なアーティキュレーション② アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第4回	半音階① アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第5回	半音階② アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第6回	跳躍① アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第7回	跳躍② アンサンブル 1クォーターの総括	エチュードを利用して、理解をしていく。

クォーター末試験評価方法

エチュードの復習と実践。アンサンブルの発表。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前回までの確認	前回までの内容の再確認
第2回	様々なアルペジオ① アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第3回	様々なアルペジオ② アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第4回	高度なエチュード① アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第5回	高度なエチュード② アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第6回	高度なエチュード③ アンサンブル	エチュードを利用して、理解をしていく。
第7回	まとめ	ここまでのまとめをする
第8回	発表	成果発表

学期末試験評価方法

出席(50%)+実技(50%)
最後の発表の到達具合も考慮する。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(打楽器)	荻原松美

科目概要

打楽器は様々な音楽ジャンルで使用されますが、楽器の種類も多く、また、様々な奏法があります。
この授業では主にポピュラー音楽で使用される楽器の奏法とリズムの作り方を学び、その実践としてリズム・アンサンブルを演奏します。

到達目標

ポピュラー音楽で使用される楽器の奏法とリズムの作り方を学び、正しい奏法でノリのある演奏ができる。
フィルインやアドリブが作れるようになる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	ラテン音楽の種類と使用楽器について
第2回	チャ・チャ①	クラベス・カウベル・マラカスの奏法
第3回	チャ・チャ②	ティンパレス・ボンゴ・コンガの奏法
第4回	マンボ①	クラベス・ギロ・マラカスの奏法
第5回	マンボ②	ティンパレス・ボンゴ・コンガの奏法(アドリブを含む)
第6回	アンサンブル	リズム・アンサンブルの練習
第7回	テスト	リズム・アンサンブルの演奏

クォーター末試験評価方法

実技試験

リズム・アンサンブルの演奏
正しい奏法を習得し、リズムのポイントを理解してノリのある演奏ができたか。
アドリブのアプローチを理解できたか。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アドリブ奏法	ラテン楽器を使いアドリブアプローチを体験
第2回	サンバ①	シェーカー・アゴゴベル・パンティエロの奏法
第3回	サンバ②	スルド・タンボリンの奏法とボサノバの説明
第4回	ドラムセットの説明	セッティング、チューニング、基本奏法
第5回	4ビート、ラテンリズム	スイングとラテンリズムでのドラムセットとパーカッション
第6回	8・16ビート	コンガ・タンバリン・トライアングル・ドラムス
第7回	アンサンブル	リズム・アンサンブルの練習
第8回	テスト	リズム・アンサンブルの演奏

学期末試験評価方法

実技試験

リズム・アンサンブルの演奏
正しい奏法を習得し、リズムのポイントを理解してノリのある演奏ができたか。
アドリブやフィルインが作れたか。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(打楽器)	荻原松美

科目概要

ティンパニー:基本奏法や楽器の知識を理解して、練習曲やアンサンブルを演奏します。
クラシック系パーカッション:基本奏法や楽器の知識を理解して、練習曲やアンサンブルを演奏します。

到達目標

3クォーター:ティンパニーの基本奏法や楽器の知識を理解して、正しい奏法と音程で演奏ができる。
4クォーター:クラシック系パーカッションの基本奏法や楽器の特性を理解して、演奏ができる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明と音程	準備するものと評価の方法。 音程の作り方
第2回	サイズと音域、音出し	サイズと音域、セッティング、マレットの持ち方・構え方、音出し
第3回	基本奏法①	単音～ロール、体の使い方、音合わせ
第4回	基本奏法②	交差、音の止め方、音合わせ
第5回	アンサンブル	「2組のティンパニーのためのマーチ」
第6回	練習曲	練習曲を練習
第7回	テスト	練習曲の演奏

クォーター末試験評価方法

実技試験

正しい奏法と音程で演奏ができたか。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベースドラム	チューニング、基本奏法、練習曲
第2回	シンバル	楽器の特性、基本奏法
第3回	トライアングル	基本奏法、練習曲
第4回	タンバリン	基本奏法、練習曲
第5回	カスタネット	基本奏法、練習曲
第6回	アンサンブル①	アンサンブルの練習
第7回	アンサンブル②	アンサンブルの練習
第8回	テスト	アンサンブルの演奏

学期末試験評価方法

実技試験

正しい奏法で楽器の特性を理解した演奏ができたか。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ(弦楽器)	小谷泉

科目概要

ストリングスサウンドは どんなジャンルの音楽にもあります その中でよく知られているものを中心に実際に演奏してアンサンブルの中で発展していきます

到達目標

弦楽器にとって複数で音楽を作り出す アンサンブルは必要不可欠です 常に周りの音が聞けるようにしましょう

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	美しいハーモニーを作りましょう	パッヘルベルカノンの演奏
第2回	ハーモニーを皆んなと作りましょう	パッヘルベルカノンの演奏
第3回	美しいハーモニーとノリの良いリズム	ミュージカル コーラスライン
第4回	ノリの良いリズム	ミュージカル コーラスライン
第5回	古典の名曲の演奏	モーツァルト アイネクライネ
第6回	古典の名曲の演奏	モーツァルト アイネクライネ
第7回	テスト	演奏による平常確認

クォーター末試験評価方法

演奏内容 出席 理解度から総合評価します

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	古典の名曲の演奏	モーツァルト ディベルティメント
第2回	古典の名曲の演奏	モーツァルト ディベルティメント
第3回	ポップスのリズムに慣れましょう	最近のヒット曲のストリングスアレンジを演奏する
第4回	ポップスのリズムに慣れましょう	最近のヒット曲のストリングスアレンジを演奏する
第5回	ポップスのリズムに慣れましょう	最近のヒット曲のストリングスアレンジを演奏する
第6回	リズムだけを取り出して色々な奏法で演奏してみましょう	四分音符からスタカト テヌート
第7回	リズムだけを取り出して色々な奏法で演奏してみましょう	シンコペーション 変拍子など
第8回	テスト	演奏による平常確認

学期末試験評価方法

演奏内容 出席 理解度から総合評価します

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ(弦楽器)	小谷泉

科目概要

ストリングスサウンドはどんなジャンルの音楽にもあります。その中でよく知られているものを中心に実際に演奏してアンサンブルの中で発展していきます。

到達目標

全体のアンサンブルに加えてプレイヤー1人1人の自発性も大切ですしっかりイメージを持って演奏に取り組みましょう

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	友達をバックにソロ演奏をしましょう	ビバルディ 四季より春
第2回	友達をバックにソロ演奏をしましょう	ビバルディ 四季より春
第3回	友達をバックにソロ演奏をしましょう	ビバルディ 四季より冬
第4回	友達をバックにソロ演奏をしましょう	ビバルディ 四季より冬
第5回	ポピュラー音楽の元になった作品を演奏しましょう	ガーシュウインの小品
第6回	ポピュラー音楽の元になった作品を演奏しましょう	ガーシュウインの小品
第7回	テスト	演奏による平常確認

クォーター末試験評価方法

秋学期も前半は1人ずつのレベルアップをはかります

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弦楽器の名曲の演奏	愛の挨拶
第2回	弦楽器の名曲の演奏	弦楽セレナーデ
第3回	再び古典曲にチャレンジ	モーツァルト 弦楽四重奏より
第4回	再び古典曲にチャレンジ	モーツァルト 弦楽四重奏より
第5回	再び古典曲にチャレンジ	ハイドン 弦楽四重奏より
第6回	ボーイング研究1	ロングトーン 色々な弓の使い方
第7回	ボーイング研究2	ジャンルによる音の使い分け
第8回	テスト	演奏による平常確認

学期末試験評価方法

演奏内容 出席 平常確認から総合評価します

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	器楽ソルフェージュ I	熊埜御堂可奈子 山岡潤 増田博之

科目概要

- 1、基礎技術の充実
- 2、楽典的知識の演奏への応用
- 3、音楽基礎能力の向上
- 4、専攻楽器を使ったソルフェージュカの向上

到達目標

楽典的な知識を実際の演奏へ応用し、発表会でバッハまたはモーツァルトの作品を演奏することが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音の再認識	音に対する明確なイメージを持つ訓練をする
第2回	基本要素の確認	メロディー、リズム・拍子、ハーモニーの関係を学習する
第3回	読譜	新しい楽譜を手にしたとき、音を把握する以外に何をすべきか学習する
第4回	初見演奏1	初見演奏、リズム読み ロマン派声楽曲から引用
第5回	初見演奏2	和声を付けた初見演奏
第6回	初見演奏3	初見演奏、リズム読み ロマン派声楽曲から引用
第7回	演奏、発表	初見課題を各楽器で演奏し発表する
クォーター末試験評価方法		
出席+取り組み50%、企画書もしくは演奏試験50%		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロック	バッハの音楽を引用し、2声、3声のメロディーのみで構成された音楽の表現方法を学習する
第2回	初見演奏4	新曲視唱、リズム読み、バッハの作品から引用
第3回	演奏、発表	初見演奏4の課題を各楽器で演奏
第4回	古典	モーツァルトの音楽を引用し、その表現方法を学習する
第5回	初見演奏5	新曲視唱、リズム読み、モーツァルトの作品から引用
第6回	演奏	初見演奏5の課題を和声を付けて各楽器で演奏
第7回	演奏	バッハ、モーツァルトの作品の中から1つ選び、一人またはグループで演奏
第8回	発表会	バッハ、モーツァルトの作品の中から1つ選び、一人またはグループで演奏
学期末試験評価方法		
出席+取り組み50%、企画書もしくは演奏試験50%		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	器楽ソルフェージュⅡ	熊埜御堂可奈子 山岡潤 増田博之

科目概要

- 1、基礎技術の充実
- 2、楽典的知識の演奏への応用
- 3、音楽基礎能力の向上
- 4、専攻楽器を使ったソルフェージュカの向上

到達目標

楽器を使ったソルフェージュカを向上させ、グループでの発表をすることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドイツ(1)	ロマン派の作品を引用、和声を付けて初見演奏する
第2回	ドイツ(2)	近現代の作品を引用、和声を付けて初見演奏する
第3回	フランス(1)	ロマン派の作品を引用、和声を付けて初見演奏する
第4回	フランス(2)	近現代の作品を引用、和声を付けて初見演奏する
第5回	イタリア	声楽曲を引用、和声を付けて初見演奏する
第6回	北欧・ロシア	声楽曲を引用、和声を付けて初見演奏する
第7回	発表会	学習した課題の中から1つ選び、各楽器で演奏する

クォーター末試験評価方法

出席+取り組み50%、企画書もしくは演奏試験50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グループ分け	発表会で演奏する曲とグループを決める
第2回	読譜(1)	それぞれ音を取り、表現する内容や注意すべき点を言葉にする
第3回	内容の理解	作曲者、時代背景、作品について調べる。
第4回	読譜(2)	各グループで話し合い、知識、表現内容を統一する
第5回	練習(1)	各グループで練習
第6回	練習(2)	各グループで練習
第7回	練習(3)	各グループで練習
第8回	発表会	演奏の前に作曲者や作品について、また、どのような事を表現したいかを発表し、演奏する

学期末試験評価方法

出席+取り組み50%、企画書もしくは演奏試験50%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ(フルート)	野崎和宏

科目概要

全ての管楽器奏者にとって必要不可欠となるアンサンブル能力を養うための基本として、同属楽器同士の音程、テンポとリズムの合わせ方、音量バランスのとり方などの基礎訓練と、小編成から大編成までのアンサンブル楽曲に取り組み、アンサンブル演奏技術と知識を学びます。

到達目標

アンサンブルの様々な基本と特殊楽器の奏法、小～大編成のアンサンブル能力を身につけることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	年間計画、基礎的知識、レパートリーの説明
第2回	基礎演習1	音程:チューニング、ユニゾン、オクターブ
第3回	基礎演習2	音程:メロディー、コード、スケールの音程のとり方
第4回	基礎演習3	アインザッツ、テンポとリズム
第5回	特殊楽器	ピッコロ、アルト、バスフルート演習
第6回	特殊楽器	ピッコロ、アルト、バスフルート演習
第7回	発表	授業内発表会形式によるクォーター末試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、演奏技術の到達度、出席率、授業態度、積極性などを総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎楽曲1	アンサンブルの基礎練習(古典カノン形式の二重奏曲)
第2回	基礎楽曲2	コードの響きのための演習 基礎課題、コラール小品
第3回	小・中編成演習課題1	メンデルスゾーン、リムスキー・コルサコフ など
第4回	小・中編成演習課題2	メンデルスゾーン、リムスキー・コルサコフ など
第5回	大編成アンサンブル1	指揮に合わせる合奏
第6回	大編成アンサンブル2	指揮に合わせる合奏
第7回	大編成アンサンブル3	指揮に合わせる合奏
第8回	発表、春学期末試験	サロンコンサートの企画

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、特殊楽器への対応、アンサンブル技術、授業出席率を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ(フルート)	野崎和宏

科目概要

演奏技術の修得と共に、学内の発表の場(室内楽コンサート)を経験して、公開演奏の進行とステージマナーを身につけます。

到達目標

小～大編成の様々なレパートリーを仕上げるのが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	小編成古典アンサンブル1	バロック、古典2～5重奏曲/様式
第2回	小編成古典アンサンブル2	バロック、古典2～5重奏曲/様式
第3回	小編成古典アンサンブル3	バロック、古典2～5重奏曲/様式
第4回	大編成楽曲1	管弦楽曲(古典)のフルートアンサンブル
第5回	大編成楽曲2	管弦楽曲(古典)のフルートアンサンブル
第6回	大編成楽曲3	管弦楽曲(古典)のフルートアンサンブル
第7回	発表	授業内発表会形式によるクォーター末試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、演奏技術の到達度、出席率、授業態度、積極性などを総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	小・中編成レパートリー1	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第2回	小・中編成レパートリー2	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第3回	小・中編成レパートリー3	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第4回	小・中編成レパートリー4	近代オリジナル4重奏の必須レパートリー
第5回	大編成楽曲4	管弦楽曲(近代)のフルートアンサンブル
第6回	大編成楽曲5	管弦楽曲(近代)のフルートアンサンブル
第7回	大編成楽曲6	管弦楽曲(近代)のフルートアンサンブル
第8回	学年末試験	小・中・大編成の室内楽演奏

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、特殊楽器への対応、アンサンブル技術、授業出席率を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ(クラリネット)	中村めぐみ

科目概要

履修学生の人数に応じて、4重奏から8重奏ほどの同属楽器アンサンブル曲を仕上げていきます。

バロック、古典、ロマン派など、時代も複数とりあげ、様式の勉強をするとともに、アンサンブルに必要な観察力、アンテナを磨き、共同作業により人間的な社会性も身につけていきます。

到達目標

仕上がりのレベルに達したら、なるべく多くの曲に触れ、読譜力の向上、複数的人数で空気を共有する喜び、観察力を身につけることなどを目標にし、個々のソロの勉強にも活かしていけることを目標とし、社会人になってもそれを活かしていけるようなスキルを会得していくこともあわせて目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルの編成を決定し譜読みを開始します。	2重奏、3重奏など、小さい編成から手がけていきます。作曲家のタイプにもヴァリエーションをもたせます。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。仕上がりによっては本番形式で録音します。
第4回	編成を変えて曲を決定します。	可能であれば新しい曲にとりかかります。特殊管にも挑戦していきたいです。
第5回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。特殊管のコツ、奏法も含めます。
第6回	レッスンをいたします。	曲を仕上げていきます。
第7回	GP 本番 録音	GPにて各グループ自主的なディスカッションと本番をいたします。

クォーター末試験評価方法

--	--	--

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編成を大きくしていき、曲を決定します。	履修人数に合わせて6~8重奏などから曲を決めて譜読みをします。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。特殊管のコツ、奏法も含めます。
第4回	レッスンをいたします。	クラリネットの合奏でしかだせないハーモニーをつくらせているかなどにこだわっていきます。
第5回	編成を変えて曲を決定します。	作曲された時代を新しくいき、テクニックもみがいていけることを考え、4重奏を中心に組みます。
第6回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。表現力をあげていきます。
第7回	レッスンをいたします。	レッスンをいたします。魅力的な演奏に仕上げていきます。
第8回	GP 本番 録音	GPにてグループごとの自主的なディスカッションと本番をいたします。

学期末試験評価方法

出席率、楽器をあやつる能力、アンサンブル力、表現力、など演奏からわかる成果を評価いたします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ(クラリネット)	中村めぐみ

科目概要

履修学生の人数に応じて、4重奏から8重奏ほどの同属楽器アンサンブル曲を仕上げしていきます。
楽器の奏法、特殊管をあつかうこと、など他のレッスン(個人)や合奏授業にも活かしてゆける経験とともに自主的な音楽づくりをするためのスキルを身につけていきます。

到達目標

仕上がりのレベルに達したら、なるべく多くの曲に触れ、アンサンブルをするのに必要な信頼関係のもとに複数的人数でテンポ、ハーモニー、などを自主的にうみだしていくことを目標とし、今後の音楽、社会人としての公共性にも生かしてゆけるスキルを身につけられればと考えます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルの編成を決定し譜読みを開始します	4重奏から8重奏までの、曲をきめていきます。作曲家のタイプにもヴァリエーションをもたせます。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	曲の分析、アンサンブルをよくしていくのに必要なアンテナなど、さらにみがいていきます。
第4回	レッスンをいたします。	仕上がりによっては、新しいグループ、曲にしていきます。その際は録音会をいたします。
第5回	レッスンをいたします。	ひきつづき曲の分析、発音、音色、ハーモニーなどのレベルアップを目指します。
第6回	レッスンをいたします。	魅力的な演奏に仕上げしていきます。細部こだわり視聴者にアピールの多い表現をつくります。
第7回	GP 本番 録音	GPにて各グループ自主的なディスカッションと本番をいたします。

クォーター末試験評価方法

--	--	--

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	室内楽発表会を見据えて、本格的にとり組める曲を決めます	学生がよいかはやけるような、ぞんぶんに力を発揮できるような曲を考え決めていきます。
第2回	レッスンをいたします。	各グループ、別に合わせをしていただきレッスンをいたします。
第3回	レッスンをいたします。	曲の分析、アンサンブルに必要なアンテナ、クオリティーの高いモチーフのつくり方などにこだわっていきます。
第4回	レッスンをいたします。	仕上がりがはやくいなら、さらにレベルの高い曲に変更する可能性もあります。
第5回	レッスンをいたします。	ひきつづき曲の分析、アンサンブルの緻密さ、表現力の深さ、大きさにこだわります。
第6回	レッスンをいたします。	魅力的な演奏に仕上げっていきます。細部にこだわり視聴者にアピールの多い表現をつくります。
第7回	レッスンをいたします。	アンサンブルのグループが演奏会出演可能団体数より多い場合のみオーディションをします。可能なかぎり全員出演できるよう考えます。
第8回	室内楽発表会に出演します。	積みかさねてきた成果を存分に発揮していただけるようサポートいたします。

学期末試験評価方法

出席率、楽器をあやつる能力、アンサンブル力、表現力、など演奏からわかる成果を評価いたします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ(サクソフォン)	波多江 史朗

科目概要

より高いレベルの演奏を目指すためには何が必要か、聴衆へ伝える演奏が出来るプレイヤーとして身に付けるべきテクニックやアンサンブル力を学んでいきます。

到達目標

1年次の「室内楽Ⅰ・Ⅱ」の積み重ねとして、多くのレパートリーを習得すること、またサクソフォン四重奏の可能性を追求できる演奏家に成長することを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入	自己紹介(経験等の確認) チーム、編成分け
第2回	楽曲研究①-1	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅰ楽章
第3回	楽曲研究①-2	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅰ楽章
第4回	楽曲研究①-3	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅱ楽章
第5回	楽曲研究①-4	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅱ楽章・Ⅲ楽章
第6回	楽曲研究①-5	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅲ楽章
第7回	楽曲研究①-6	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅳ楽章
クォーター末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲研究①-7	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅳ楽章
第2回	楽曲研究①-8	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー) 全楽章
第3回	楽曲研究②-1	サクソフォン小四重奏曲(J.フランセ)より Ⅰ楽章
第4回	楽曲研究②-2	サクソフォン小四重奏曲(J.フランセ)より Ⅱ楽章
第5回	楽曲研究②-3	サクソフォン小四重奏曲(J.フランセ)より Ⅲ楽章
第6回	楽曲研究③-1	アンダンテとスケルツェット(P.ランティエ)より アンダンテ
第7回	楽曲研究③-2	アンダンテとスケルツェット(P.ランティエ)より スケルツェット
第8回	楽曲研究②,③試験	室内楽発表会へ向けたオーディション
学期末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ(サクソフォン)	波多江 史朗

科目概要

2年間の総括に位置付く最終クォーターでは、高度な技術を要する作品に取組み、演奏者として充実したレパートリーを持ち合わせることが出来るよう学んでいきます。

到達目標

より多くのレパートリーを習得し、完成度と音楽的追求を求める演奏家に成長することを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲研究④-1	民謡風ロンドの主題による序奏と変奏(G.ピエルネ)
第2回	楽曲研究④-2	民謡風ロンドの主題による序奏と変奏(G.ピエルネ)
第3回	楽曲研究④-3	民謡風ロンドの主題による序奏と変奏(G.ピエルネ)
第4回	楽曲研究⑤-1	序奏とスケルツォ(R.クレリス)
第5回	楽曲研究⑤-2	序奏とスケルツォ(R.クレリス)
第6回	楽曲研究⑤-3	序奏とスケルツォ(R.クレリス)
第7回	楽曲研究④,⑤発表会	授業内発表会

クォーター末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲研究⑥-1	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より I 楽章
第2回	楽曲研究⑥-2	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より II 楽章
第3回	楽曲研究⑥-3	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より III 楽章
第4回	楽曲研究⑥-4	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より IV 楽章
第5回	大編成による合奏研究①	ラージアンサンブルより選曲合奏
第6回	大編成による合奏研究②	ラージアンサンブルより楽曲合奏
第7回	大編成による合奏研究③	ラージアンサンブルより楽曲合奏
第8回	学年末総括	授業内発表会

学期末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ(木管五重奏)	多田 逸左久

科目概要

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。I・IIクォーターでは、主として19世紀終わり頃までの作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。
受講に当たっては、予習は元より復習が重要です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス ハイドン(1)	一年間の授業指針を説明 ハイドン: 嬉遊曲 第1・2楽章
第2回	ハイドン(2)	ハイドン: 嬉遊曲 第3・4楽章
第3回	ダンツィ(1)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第1楽章
第4回	ダンツィ(2)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第2楽章
第5回	ダンツィ(3)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第3楽章
第6回	ダンツィ(4)	ダンツィ: 木管五重奏曲 変口長調 第4楽章
第7回	Iクォーターの総括	授業内発表会

クォーター末試験評価方法

出席率(50%)・平常点(10%)・実技試験(40%)を目安に、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ライヒャ(1)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第1楽章
第2回	ライヒャ(2)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第2楽章
第3回	ライヒャ(3)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第3楽章
第4回	ライヒャ(4)	ライヒャ: 木管五重奏曲 変ホ長調 第4楽章
第5回	タファネル(1)	タファネル: 木管五重奏曲 I
第6回	タファネル(2)	タファネル: 木管五重奏曲 II
第7回	タファネル(3)	タファネル: 木管五重奏曲 III
第8回	IIクォーターの総括	授業内発表会

学期末試験評価方法

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽 IV (木管五重奏)	多田 逸左久

科目概要

管楽器演奏家として、カバーしなければならないジャンルは多種多様ですが、その一つに木管五重奏が挙げられます。本講座では、数多の木管五重奏の中から、ベーシックかつエポックの異なる作品をセレクトして演習します。Ⅲ・Ⅳクォーターでは、主として近代以降の作品に取り組みますが、状況に応じて適宜入れ替える可能性もあります。

到達目標

一年間の演習を通して、個々の演奏技能を磨きながらアンサンブル技法を学修し、演習した作品を着実にレパートリーにすることを目標にします。
受講に当たっては、予習は元より復習が重要です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミヨー(1)	ミヨー: ルネ王の暖炉 I・II
第2回	ミヨー(2)	ミヨー: ルネ王の暖炉 III・IV・V
第3回	ミヨー(3)	ミヨー: ルネ王の暖炉 VI・VII
第4回	イベール(1)	イベール: 三つの小品 I
第5回	イベール(2)	イベール: 三つの小品 II
第6回	イベール(3)	イベール: 三つの小品 III
第7回	Ⅲクォーターの総括	授業内発表会

クォーター末試験評価方法

出席率(50%)・平常点(10%)・実技試験(40%)を目安に、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セルヴァンスキー(1)	セルヴァンスキー: 木管五重奏曲 I
第2回	セルヴァンスキー(2)	セルヴァンスキー: 木管五重奏曲 II
第3回	セルヴァンスキー(3)	セルヴァンスキー: 木管五重奏曲 III
第4回	ヒンデミット(1)	ヒンデミット: 小室内楽曲 I
第5回	ヒンデミット(2)	ヒンデミット: 小室内楽曲 II・III
第6回	ヒンデミット(3)	ヒンデミット: 小室内楽曲 IV
第7回	ヒンデミット(4)	ヒンデミット: 小室内楽曲 V
第8回	一年間の総括	室内楽発表会(パリオホール)

学期末試験評価方法

「継続は力なり！」

出席率を重視し、平常点(受講姿勢)と演習の実践への反映度を総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ(ホルン)	並木博美

科目概要
ホルンの演奏家として必要な合奏能力、移調読みを含めた読譜力、楽曲の構造の理解力を高めていきホルンのみの編成による室内楽作品或いはオーケストラの作品中の重要なパートを時代毎に選びそれらの演奏法並びに作品分析力、演奏力などの向上を養います。
到達目標
リズムを理解し演奏に結び付ける力、和音の種類を理解し音程を合わせる力、作品の中での自分のパートの役割を理解する力、メロディーか伴奏なのか見分けて演奏に反映させて行く力などを向上させていきます。また平易な二重奏・三重奏・四重奏などの作品の初見力の向上を目指します。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	ホルンのアンサンブルの歴史についてお話してこれから学んでいく作品や編成について決めてまいります。
第2回	平易な二重奏と四重奏のアプローチ	ホルンによる二重奏と四重奏の平易なアルバムの中から技術的にあった作品を選び演奏してみましょう。
第3回	平易な二重奏と四重奏の演奏	第2回で演奏してみた作品を完成して行くために必要なこと(リズム、音程、ハーモニー、メロディー)に着目して形にしていきます。
第4回	狩りの楽器としてのホルンについて(その1)	1600年頃より狩りの信号ラッパとして使われていたホルンですが今でも使われています。その信号ラッパとしての音楽を演奏します。
第5回	狩りの楽器としてのホルン音楽の発展(その2)	ホルンが次第に発展して森で演奏される音楽として書かれたダイゼンロートの「ダンピエール伯爵」という作品を演奏します。
第6回	室内楽作品として地位を得たホルンの作品	室内(家庭)で演奏される作品として今もよく演奏される作品としてA.ライヒャのホルントリオを演奏してみましょう。
第7回	ホルントリオに触れてみます。	A.ライヒャのホルントリオを抜粋ですが深く掘り下げ演奏し研究してまいります。移調読みについても学びます。

クォーター末試験評価方法
授業内容の理解度、受講態度、出席状況、作品の読譜力、演奏力、作品の分析力、リハーサルをまとめて行く力などにより評価してまいります。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ウイーンの近代の作品を演奏しましょう。	A.ブンデラーのアルバムの10曲のホルンカルテットを演奏してみましょう。ウイーンの音楽スタイルや様々な舞曲が含まれています。
第2回	ドイツの近代の作品を演奏しましょう。	ホメリウスの作品を演奏してみましょう。本格的な音楽作品として評価されているものです。今回は第1楽章を練習します。
第3回	ホメリウスの作品を完成させてみましょう。	ホメリウスの作品。今回は第1楽章の続きと第2楽章ノ譜読み方分析を初めていき練習に繋がります。
第4回	ホメリウス全曲のまとめです。	ホメリウスの第3楽章を完成させたのち全楽章の演奏をまとめていきましょう。
第5回	ウイーンバルトホルン合奏団の歴史と作品	1800年代から現在に至るまで続くホルンだけの合奏団の生み出した作品の中から代表的なものを演奏していきます。
第6回	1800年代の二重奏を演奏します。	1800年代に作曲された代表的な二重奏オットー・ニコライの作品集から作品を選び二人ずつ組んで演奏を完成させていきます。
第7回	1800年代の三重奏を演奏します。	1800年代のA.ライヒャの作品を演奏し演奏法を研究していきましょう。移調読みはin Es,in Eが課題となります。
第8回	春学期のまとめです。	今まで演奏してきた作品の中から一曲ずつ選び教室にて演奏の成果を披露した後に反省点を見つけ出し今後の方向性を見出します。

学期末試験評価方法
出席状況、授業の態度、作品の分析力、室内楽の演奏の完成に向けてのまとめかた、演奏力などから評価してまいります。

管弦打楽器学科学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ(ホルン)	並木博美

科目概要

ホルンのみによる室内楽作品を近代から現代に至る代表的なものを取り上げ、それらの作品についての時代的背景と作品の意義について学び演奏法、解釈について研究しつつ形にまとめて行くプロセスを大切にしつつ演奏をまとめレパートリーにしていきます。

到達目標

自分たちの演奏する作品について時代的な意義をどれだけ理解した上に楽譜を読み取り演奏にそれらを反映させ技術的な問題を克服していけるか、また互いにどれだけ聴き合い良いアンサンブルと、より高度な演奏に全体をまとめ上げて行けるようになるかが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フランス近代の代表的な作品(その1)	E.ボザのカルテットの譜読みを初めていきます。今回は第1楽章から始めます。ヘ音記号の読み取りが重要です。
第2回	フランス近代の代表的な作品(その2)	E.ボザのホルンカルテットの第1楽章をまとめていきます。このパートの技術的難易度が高いのであらかじめ練習が必要となってきます。
第3回	フランス近代の代表的な作品(その3)	E.ボザのカルテットの第1楽章の仕上げと第2楽章の練習をしていきます。テンポの揺れ動きが重要な課題です。
第4回	フランス近代の代表的な作品(その4)	E.ボザのカルテットの第2楽章のまとめと第3楽章の練習をしていきます。2楽章では低音域の練習が必要です。
第5回	フランス近代の代表的な作品(その5)	E.ボザのカルテットの第3楽章のまとめと第4楽章の練習をしていきます。4楽章は低音域とストップ奏法の練習が必要です。
第6回	E.ボザの演奏のまとめ	E.ボザのカルテットの第4楽章をまとめその後全楽章を組曲形式で演奏してまとめていきます。
第7回	E.ボザのカルテットの演奏による試験	今まで創り上げてきたボザのカルテットを実際に演奏してそれぞれの理解度、演奏の精度が重要となります。

クォーター末試験評価方法

作品に対する個人としての楽曲に対するパートに対しての理解力、フレージングの理解、和声的な動きに対する理解度、音量バランスの理解、アンサンブル力、読譜力と出席率、授業の受講態度などを加味して採点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	H.ユーリセンの作品(その1)	ロマン派時代の作風で現代の作曲家H.ユーリセンが書いているシャンソマニエという四重奏の作品を取り上げます。
第2回	H.ユーリセンの作品(その2)	シャンソマニエのアンサンブルの不具合を調節・整理し楽曲として演奏が可能となるように目指します。
第3回	T.ディッカウの作品(その1)	アメリカの作曲家T.ディッカウの作品、組曲「トイボックス」全8曲の演奏ができるように練習して行きます。第1曲と第2曲第3曲です。
第4回	T.ディッカウの作品(その2)	組曲「トイボックス」の第3曲第4曲第5曲の練習を行い完成させて行きます。行進曲風・バラード風、ネイティブ風舞曲という構成です。
第5回	T.ディッカウの作品(その3)	組曲「トイボックス」の第6曲第7曲第8曲の練習を行ない全曲を通して曲の完成を目指します。
第6回	E.ザイフリートの作品(その1)	オーストリア放送交響楽団のメンバーのために描かれた5重奏の名作です。全5楽章の作品です。第1楽章を完成させます。
第7回	E.ザイフリートの作品(その2)	第2、3楽章をリハーサルして完成の形に持って行きます。第2楽章は「狩の行進曲」、第3楽章は「スケルツォ」です。
第8回	新曲をその場でリハーサルして組み立てます。	あらかじめ受講者全員に渡しておいた新曲を組み立てて演奏して採点いたします。

学期末試験評価方法

個々のパートに対する読譜力、曲全体における役割の把握、和声的合わせる力、バランスの力、アンサンブルをリードする力などと共に日頃の受講態度、出席状況を加味して採点します

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ (トランペット)	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ (トランペット)	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ (トロンボーン)	山口隼士

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ (トロンボーン)	山口隼士

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ (ユーフォニアム・チューバ)	齋藤充

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ (ユーフォニアム・チューバ)	齋藤充

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ(金管五重奏)	宮澤聰宏

科目概要

本室内楽クラスは、金管五重奏の形式で様々な楽曲を取り上げます。
音程、アーティキュレーション、サウンド、リズムなどの統一トレーニングを中心に音楽性・表現力の向上を目指します。

到達目標

アンサンブルテクニックとパフォーマンスプラクティスの理解度

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業の説明
第2回	金管五重奏のグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング1	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング2	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて様々な角度からコーチングを行う
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて様々な角度からコーチングを行う
第7回	授業内発表	クォーター末試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	アンサンブルメンバーのグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング3	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング4	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第7回	楽曲コーチング3	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第8回	授業内発表	学期末試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ(金管五重奏)	宮澤聰宏

科目概要

本室内楽クラスは、金管五重奏の形式で様々な楽曲を取り上げます。
音程、アーティキュレーション、サウンド、リズムなどの統一トレーニングを中心に音楽性・表現力の向上を目指します。

到達目標

アンサンブルテクニックとパフォーマンスプラクティスの理解度

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	金管五重奏のグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング5	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング6	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて、フレージングや表現力について学ぶ
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて、フレージングや表現力について学ぶ
第7回	授業内発表	クォーター末試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	アンサンブルメンバーのグループ分け	選曲とパート決め
第3回	アンサンブルトレーニング7	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第4回	アンサンブルトレーニング8	ハーモニー、アーティキュレーション、リズム、音程の総トレーニング
第5回	楽曲コーチング1	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第6回	楽曲コーチング2	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第7回	楽曲コーチング3	楽曲を用いて、正確に演奏する為の技術を学ぶ
第8回	授業内発表	学期末試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業の為、出席率を重要視し平常点も考慮して、総合的に評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	室内楽Ⅲ(打楽器)	荻原松美

科目概要

打楽器アンサンブルで大切なセッティングから、合図の出し方・受け方、バチの動作(アインザッツ)などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテなど完成度の高いアンサンブルを作ることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	基本的なアンサンブル①	オリジナル作品の練習、スコアの確認①
第3回	基本的なアンサンブル②	オリジナル作品の練習、スコアの確認②
第4回	基本的なアンサンブル③	オリジナル作品の練習、スコアの確認③
第5回	基本的なアンサンブル④	オリジナル作品の練習、スコアの確認④
第6回	基本的なアンサンブル⑤	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第7回	テスト	コンサート形式での公開テスト

クォーター末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	オリジナル作品の練習、スコアの確認①
第3回	アンサンブル②	オリジナル作品の練習、スコアの確認②
第4回	アンサンブル③	オリジナル作品の練習、スコアの確認③
第5回	アンサンブル④	オリジナル作品の練習、スコアの確認④
第6回	アンサンブル⑤	オリジナル作品の練習、スコアの確認⑤
第7回	アンサンブル⑥	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第8回	テスト	コンサート形式での公開テスト

学期末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	室内楽Ⅳ(打楽器)	荻原松美

科目概要

打楽器アンサンブルで大切なセッティングから、合図の出し方・受け方、バチの動作(アインザッツ)などの基本を学び、様々な打楽器によるアンサンブルを体験します。

到達目標

楽器の特質から来る音量バランス、メロディーと伴奏のバランス、タテなど完成度の高いアンサンブルを作ることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	アンサンブルの練習①
第3回	アンサンブル②	アンサンブルの練習②
第4回	アンサンブル③	アンサンブルの練習③
第5回	アンサンブル④	アンサンブルの練習④
第6回	アンサンブル⑤	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第7回	テスト	コンサート形式での公開テスト

クォーター末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	アンサンブルの練習①
第3回	アンサンブル②	アンサンブルの練習②
第4回	アンサンブル③	アンサンブルの練習③
第5回	アンサンブル④	アンサンブルの練習④
第6回	アンサンブル⑤	アンサンブルの練習⑤
第7回	アンサンブル⑥	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第8回	テスト	コンサート形式での公開テスト

学期末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	吹奏楽Ⅲ	大井剛史

科目概要
吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。
到達目標
合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入及び合奏の基本	授業の内容と目的を説明するとともに、必要な予習と授業に臨む姿勢について説明します
第2回	曲の理解、課題の確認	課題となっている曲の合奏を行い、この先の進行予定を把握する
第3回	合奏技術の向上①	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上②	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上③	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上④	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑤	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
クォーター末試験評価方法		
出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス 合奏技術の向上⑥	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第2回	合奏技術の向上⑦	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第3回	合奏技術の向上⑧	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上⑨	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上⑩	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上⑪	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑫	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第8回	合奏技術の向上⑬	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
学期末試験評価方法		
出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	吹奏楽Ⅳ	大井剛史

科目概要

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び、歴史的作品を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。

到達目標

合奏の基本を習得するとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入及び合奏の基本	授業の内容と目的を説明するとともに、必要な予習と授業に臨む姿勢について説明します
第2回	曲の理解、課題の確認	課題となっている曲の合奏を行い、この先の進行予定を把握する
第3回	合奏技術の向上①	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上②	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上③	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上④	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑤	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

クォーター末試験評価方法

出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス 合奏技術の向上⑥	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第2回	合奏技術の向上⑦	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第3回	合奏技術の向上⑧	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第4回	合奏技術の向上⑨	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第5回	合奏技術の向上⑩	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第6回	合奏技術の向上⑪	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第7回	合奏技術の向上⑫	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ
第8回	合奏技術の向上⑬	合奏を通してのアンサンブル能力の向上、表現力を学ぶ

学期末試験評価方法

出席・受講状況を90%、その他合奏への貢献度などを総合的に評価する。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	吹奏楽Ⅲ	武田晃

科目概要
吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の歴史的作品を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。
到達目標
合奏の音作りの基本を習得するとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入及び合奏の基本	授業の内容と目的を説明するとともに、必要な予習と授業に臨む姿勢について説明します。
第2回	合奏能力の把握と課題の確認	読譜能力とアンサンブル能力を把握し、学んでいく上での課題を明らかにし、今後の目標を示します。
第3回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典1	行進曲と吹奏楽の古典的作品を通して、拍子感と基本的な表現力を学びます。
第4回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典2	拍子感と基本的表現力に加えて、バランスの調整及びアーティキュレーションの統一について学びます。
第5回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典3	前回までの学習事項に加えて、フレージングと表現力を学び、合奏の仕上げます。
第6回	新たなレパートリーの開拓1	新たなレパートリーである小編成及びフレキシブル編成の合奏を通して、少人数のアンサンブルについて学びます。
第7回	新たなレパートリーの開拓2	新たなレパートリーである小編成及びフレキシブル編成の楽曲の録音を通して、少人数のアンサンブル能力を向上させます。
クォーター末試験評価方法		
アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品1	吹奏楽の特徴を生かした20世紀中期の作品と管弦楽曲からの編曲作品を通して、曲のスタイルと表現法を学びます。
第2回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品2	バランスの調整及びアーティキュレーションの統一を図り、まとまりのあるアンサンブルを生み出すことを学びます
第3回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品3	フレージングとアゴーギクについて学び、曲の表現力をさらに高めることを学びます。
第4回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品4	前期発表会に向け、プログラム全体の構成とエネルギーの配分について学びます。
第5回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品5	1クォーター及び2クォーターで学んだ楽曲による前期発表会を行います。
第6回	レパートリーの拡充1	スタンダードマーチ及び20世紀初中期の作品の中から経験しておくべき楽曲について学びます。
第7回	レパートリーの拡充2	それぞれの作品の作曲の背景と曲のスタイルについて合奏を通して学びます。
第8回	レパートリーの拡充3	現在の吹奏楽のレパートリーの特徴と表現法について学びます。
学期末試験評価方法		
アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。		

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	吹奏楽Ⅳ	武田晃

科目概要

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期～現代の吹奏楽曲(独奏曲を含む)を取り上げるとともに新たなレパートリーについても学び、それぞれの曲のスタイルと表現法を学びます。

到達目標

積極的に表現できる能力とアンサンブル全体を把握できる能力を高め、高いレベルの合奏を実現することを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新たなレパートリーの開拓3	新たなレパートリーであるピアノ曲及び声楽曲等からの編曲作品を通して、管楽器による表現法の向上について学びます。
第2回	新たなレパートリーの開拓4	新たなレパートリーであるピアノ曲及び声楽曲等からの編曲作品の録音を通して、アンサンブル能力と表現力をさらに向上させます。
第3回	新たなレパートリーの開拓5	作曲コンクールに応募された新作の合奏を通して、参考演奏のない状態からの音楽作りについて学びます。
第4回	レパートリーの拡充4	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について学びます。
第5回	レパートリーの拡充5	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について、アンサンブル能力の向上を重点に学びます。
第6回	レパートリーの拡充6	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について、表現力の向上を重点に学びます。
第7回	新たなレパートリーの開拓6	これまでにない編成の楽曲を通して、柔軟なアンサンブル能力の習得について学びます。

クォーター末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新たなレパートリーの開拓7	これまでにない編成の楽曲の表現の仕方について学びます。
第2回	新たなレパートリーの開拓8	これまでにない編成の楽曲を通して、前例にとらわれない柔軟なアンサンブル能力と表現能力について学びます。
第3回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品1	高い能力を要求される現代の吹奏楽曲と管弦楽曲からの編曲作品を通して、高度なアンサンブル能力と表現法について学びます。
第4回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品2	独奏楽器と吹奏楽のための作品を通して、伴奏の演奏法及び独奏楽器とのバランスについて学びます。
第5回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品3	現代の吹奏楽曲と管弦楽曲からの編曲作品を通して、高度なアンサンブル能力と表現法をさらに向上させます。
第6回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品4	独奏楽器と吹奏楽のための作品を通して、伴奏の演奏法及び独奏楽器とのバランスについてさらに向上させます。
第7回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品5	ウインター・バンドフェスティバルでの演奏を前に、全体の構成とエネルギーの配分について学びます。
第8回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品6	1年間の授業の総仕上げとして、演奏能力だけではなく質の高いコンサートのありかたについて学びます。

学期末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価する。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	管弦打楽器指導法 I	佐藤 正人

科目概要

吹奏楽指導者として必要な、楽器の知識や練習方法などの実践的に学びます。基礎指導法の習得を主眼とし、特に基本指導の方法と初歩の指導に精通できるように研究を深めていきます。

到達目標

各専攻楽器以外に、知識や練習方法論を幅広く、正確に理解しているかを身に付けて行きます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	各楽器の指導法	授業発表についてオリエンテーション各楽器の指導方法、歴史、音だし等の基本奏法について
第2回	楽器の基礎知識①	楽器の構造と奏法:フルート&ピッコロ
第3回	楽器の基礎知識②	楽器の構造と奏法:オーボエ&コールアンブレ
第4回	楽器の基礎知識③	楽器の構造と奏法:バスーン
第5回	楽器の基礎知識④	楽器の構造と奏法:クラリネット E♭Cl~C.B.Clまで、同族楽器含む
第6回	楽器の基礎知識⑤	楽器の構造と奏法:サクソフォン Soprano~Bassまで、同族楽器含む
第7回	楽器の基礎知識⑥	楽器の構造と奏法:サクソルン属

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席70%・理解度30%とします。
木管楽器の構造と奏法についての機能及びその指導の仕方、個々の楽器への発表の取り組み、知識の定着度など、総合的に判断します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽器の基礎知識⑦	楽器の構造と奏法:トランペット&ホルネット&フリューゲル
第2回	楽器の基礎知識⑧	楽器の構造と奏法:ホルン
第3回	楽器の基礎知識⑨	楽器の構造と奏法:トロンボーン
第4回	楽器の基礎知識⑩	楽器の構造と奏法:ユーフォニアム&テューバ
第5回	楽器の基礎知識⑪	楽器の構造と奏法:S.D、BD、Timp、CymTom.編
第6回	楽器の基礎知識⑫	楽器の構造と奏法:鍵盤打楽器(マレットパーカッション)編
第7回	楽器の基礎知識⑬	楽器の構造と奏法:その他の打楽器(ラテン楽器、ドラムス)編
第8回	試験	各楽器の基礎知識の定着度

学期末試験評価方法

評価方法は、出席70%・理解度30%とします。
金管・打楽器の構造と奏法についての機能及びその指導の仕方、個々の楽器への発表の取り組み、知識の定着度など、総合的に判断します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	管弦打楽器指導法Ⅱ	佐藤 正人

科目概要

3クォーターでは楽器の基礎知識(弦楽器)や吹奏楽現場での現状を学びます。
4クォーターでは吹奏楽指導の基礎知識を総合的(指揮法、合奏練習の進め方、表現力、アナリーゼ等)に学びます。

到達目標

各専攻楽器以外に、知識や練習方法論を幅広く、正確に理解しているかを身に付けて行きます。また、合奏の基礎トレーニング(チューニング、バランス、スケール、ハーモニー、リズム)の練習を行い、その方法を理解習得していきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽器の基礎知識⑭	楽器の構造と奏法:コントラバス(弦楽器について)
第2回	楽器の基礎知識⑮	楽器の構造と奏法:ハープ 各楽器の指導法まとめ
第3回	日本の吹奏楽指導の現状	日本の吹奏楽の現状について、スクールバンド指導法、運営について、様々な角度から学ぶ
第4回	日本と世界の吹奏楽の歴史	作曲家と作品、吹奏楽の変遷、先生の推移等、様々な吹奏楽団についてレパートリーを通して学ぶ
第5回	アンサンブル指導法	木管、金管、打楽器のアンサンブルレパートリーと指導法研究
第6回	著作権について	作曲家と出版社、著作権、保護期間、手続き等著作権について基本的な知識を学ぶ
第7回	演奏会を開くまで	吹奏楽団の運営法、演奏会開催までの計画、マネージメント等、必要な知識を学ぶ

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席70%・理解度30%とします。
弦楽器の構造と奏法についての機能及びその指導の仕方、個々の楽器への発表の取り組み、知識の定着度など。また、吹奏楽現場での現状を理解しているか総合的に判断します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	吹奏楽指導の基礎知識①	指揮台に立つ前に。楽器の点検、姿勢、呼吸法の指導などの基本項目について
第2回	吹奏楽指導の基礎知識②	リハーサルの態度・練習計画・楽曲分析と表現の工夫。指揮法・表現力・リズム感
第3回	吹奏楽指導の基礎知識③	様々なアンサンブルの指導:レパートリー、実際の演奏、セッティング、楽曲アナリーゼ
第4回	吹奏楽指導の基礎知識④	バンドメソッド研究、JBCバンドブック、尚美ウインドスタディ等活用法について、各楽器毎の教則本について
第5回	吹奏楽指導の基礎知識⑤	合奏使用教材について(ハーモニーディレクター、チューナー、メトロノームなどの活用法)
第6回	合奏指導の実践①	合奏指導法の実践(リハーサルテクニック実践) 楽曲を用いて～小編成のベーシックレパートリーから
第7回	合奏指導の実践②	合奏指導法の実践(リハーサルテクニック実践) 吹奏楽のスタンダード作品から
第8回	試験	合奏指導法(リハーサルテクニック)についてリハーサルテクニック・指揮法確認、発表

学期末試験評価方法

評価方法は、出席70%・理解度30%とします。
吹奏楽の合奏(特に基礎トレーニング)を実践すること、その準備への取組を評価の対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	オーケストラB I	舘市正克 他

科目概要

オーケストラの合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、などの向上を目指します。
さらに楽曲分析の方法やコンサートまでの取り組み方なども学びます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第2回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第3回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で全体像を把握します。
第4回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で全体像を把握します。
第5回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	分奏	「コンチェルトのタベ」準備 分奏で細部を詰めます。
第7回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。

クォーター末試験評価方法

--	--	--

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分奏	「コンチェルトのタベ」準備 分奏で細部を詰めます。
第2回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第3回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第4回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第5回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との通し練習をします。
第6回	本番	「コンチェルトのタベ」演奏会 本番(バリオホール)
第7回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第8回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。

学期末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。
演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	オーケストラBⅡ	舘市正克 他

科目概要

オーケストラの合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。

到達目標

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、などの向上を目指します。
さらに楽曲分析の方法やコンサートまでの取り組み方なども学びます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第2回	分奏	「オータムコンサート」準備 分奏で細部を詰めます。
第3回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第4回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第5回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第7回	本番	「オータムコンサート」演奏会 本番(パリオホール)

クォーター末試験評価方法

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で全体像を把握します。
第2回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で全体像を把握します。
第3回	分奏	「研究発表会」準備 分奏で細部を詰めます。
第4回	分奏	「研究発表会」準備 分奏で細部を詰めます。
第5回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第7回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との通し練習をします。
第8回	本番	「コンチェルトのタベ」演奏会 本番(パリオホール)

学期末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。
演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	ポップス合奏Ⅲ	織田浩司 熱田公紀

科目概要

合奏を通してポップス音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

到達目標

Jazzの基本を学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	Jazzについての説明と、パート決め、係決めを行い、初級曲を合奏します。
第2回	Jazzスタイルの基本1	アタックとリリース、アフタービートについて勉強します。
第3回	Jazzスタイルの基本2	Jazzのアーティキュレーションについて勉強します。
第4回	Jazzスタイルの基本3	Jazzのシンコペーションについて勉強します。
第5回	Jazzスタイルの基本(復習)	Jazzの基本1～3の復習 発表曲の復習を行います。
第6回	ラテンとロックスタイル	イーブンのリズム、アーティキュレーションの勉強をします。
第7回	発表会にむけて	曲目決定、本番までのリハーサルスケジュール確認

クォーター末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発表会にむけて1	発表会での演奏曲の練習
第2回	発表会にむけて2	発表会での演奏曲の練習
第3回	発表会にむけて3	発表会での演奏曲の練習 構成確認
第4回	発表会にむけて4	発表会での演奏曲の練習 仕上げ
第5回	最終リハーサル	ステージ演出確認
第6回	発表会検証	発表会の音源、映像を見ながら自己分析
第7回	レパートリー拡大1	スタンダードにふれる(スウィング1)
第8回	レパートリー拡大2	スタンダードにふれる(スウィング2)

学期末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	ポップス合奏Ⅳ	織田浩司 熱田公紀

科目概要

合奏を通してポップス音楽の演奏法の習得を目指します。ジャズ、ロック、ラテン等様々な音楽スタイルを理解し、表現力を身につけます。毎回、教材を使った基礎理解と合奏を行います。

到達目標

インプロヴァイスを学び、発表会で完成度の高い演奏をすることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レパートリーの拡大3	スタンダードにふれる(ラテンジャズ1)
第2回	レパートリーの拡大4	スタンダードにふれる(ラテンジャズ2)
第3回	インプロヴァイスしてみよう1	メロディフェイク、ブルースを使ったインプロヴァイスを勉強します。
第4回	インプロヴァイスしてみよう2	メロディフェイク、ブルースを使ったインプロヴァイスを勉強します。
第5回	インプロヴァイスしてみよう3	メロディフェイク、ブルースを使ったインプロヴァイスを勉強します。
第6回	発表会にむけて1	発表会にむけて選曲/音だし
第7回	発表会にむけて2	発表会にむけて選曲/音だし

クォーター末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発表会にむけて3	発表会での演奏曲の練習
第2回	発表会にむけて4	発表会での演奏曲の練習
第3回	発表会にむけて5	発表会での演奏曲の練習
第4回	発表会にむけて6	発表会での演奏曲の練習 構成確認
第5回	発表会にむけて7	発表会での演奏曲の練習 仕上げ
第6回	コンサート演出1	ステージ演出の構築1
第7回	コンサート演出2	ステージ演出の構築2
第8回	最終リハーサル	ステージ演出確認

学期末試験評価方法

毎回の授業の出席、態度
発表会での曲の完成度、演奏者としてのマナー、パフォーマンス

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	弦楽合奏Ⅲ	舘市正克

科目概要

弦楽合奏の特有な表現を具体化します。
弦楽合奏における基本となる奏法を着手します。

到達目標

弦楽アンサンブルの基礎的な知識を身につける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の学習計画を理解する
第2回	弦楽合奏について	主に各楽器の調弦(チューニング)について
第3回	課題曲Ⅰ	曲の確認のため、通し練習
第4回	課題曲Ⅰ	作曲家の時代による様式を学ぶ
第5回	課題曲Ⅰ	音程とボウイングについて
第6回	課題曲Ⅰ	表現力の可能性について
第7回	試験	確認のためのテスト

クォーター末試験評価方法

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弦楽器について	弦楽器の使い方
第2回	基礎Ⅰ	課題曲を選定
第3回	基礎Ⅰ	ボウイングの決定
第4回	基礎Ⅱ	楽曲の様式と意図
第5回	基礎Ⅱ	音程とリズム
第6回	発表に向けて	主旋律、副旋律、伴奏などについて
第7回	発表に向けて	楽曲の全体像を捉える
第8回	春の総括	確認のためのテスト

学期末試験評価方法

出席率と理解度を主に総合評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	弦楽合奏Ⅳ	舘市正克

科目概要

多様なボウイングで多彩な音色を学びます。
弦楽器特有の表現力を習得します。

到達目標

実習を通して多くの奏法を習得する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	学習計画を理解する
第2回	音階	音階とアルペジオの重要性について
第3回	課題曲Ⅱ	課題曲を選定
第4回	課題曲Ⅱ	弓づけにおける表現の違いについて
第5回	課題曲Ⅲ	課題曲を選定
第6回	課題曲Ⅲ	音楽の意図を理解する
第7回	試験	確認のためのテスト

クォーター末試験評価方法

出席率、受講姿勢、実演を総合評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎Ⅰ	課題曲を選定
第2回	基礎Ⅱ	曲の全体像を捉える
第3回	応用Ⅰ	様式の理解と弓づけの決定
第4回	応用Ⅰ	純正音程とリズム
第5回	応用Ⅱ	合奏の応用
第6回	応用Ⅱ	楽曲の意図について
第7回	発表の準備	テンポの捉え方と音の処理を理解知る
第8回	秋の総括	確認のためのテスト

学期末試験評価方法

一年を振り返り、アンサンブル能力などの全体の成果を総合評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	パフォーマンスバンドⅢ	石田 修一

科目概要

- ・吹奏楽編成による合奏能力、アンサンブルテクニクの向上
- ・吹奏楽ならではの多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究
- ・吹奏楽編成に歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究

到達目標

吹奏楽における合奏能力(チューニング、リズム、ハーモニートレーニング)、アンサンブルテクニクを身に付けます。また、舞台表現の追及やバリエーションを研究し、音楽家としてのコーディネート力、受難な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業内容やホール使用の説明 自己紹介、係り決め
第2回	セッティング、サウンドトレーニング	基礎合奏(チューニング・バランス・スケール・ハーモニーなど)
第3回	サウンドの調和(ブレンド)への意識	基礎合奏/コラール
第4回	音価、リズム、ハーモニーの統一	基礎合奏/コラール/楽曲初見
第5回	ユニゾン統一、リズム処理、 ハーモニー解釈・役割	基礎合奏/コラール/楽曲練習
第6回	音色、バランス、 リズム・テンポ感、フレージング統一	基礎合奏/コラール/楽曲練習
第7回	ダイナミクス、バランス、 音程、音形、ハーモニー	基礎合奏/コラール/楽曲練習

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は基本的な合奏能力の習得、吹奏楽のサウンド作りの理解、基礎合奏から楽曲演奏へ発展することが出来ているか、を評価対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音色の変化、コントラスト、速度変化	基礎合奏/コラール/楽曲練習
第2回	速度設定、ニュアンス、 アゴギク、振付の基本	楽曲・演技
第3回	セクション間のアンサンブル、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第4回	全体アンサンブル、様式感、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第5回	細部の仕上げ	総合リハーサル
第6回	演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合性	総合リハーサル
第7回	通し練習、総合リハーサル	総合リハーサル
第8回	本番<パリオホール>	SUMMER BAND FESTIVAL

学期末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技は吹奏楽のサウンド作りの理解、アンサンブル能力、音楽に合わせた視覚効果の理解とその取組、を評価対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	パフォーマンスバンドⅣ	石田修一

科目概要

- ・吹奏楽編成による合奏能力、アンサンブルテクニクの向上
- ・吹奏楽ならではの多種多様なスタイル、ジャンルの楽曲研究
- ・吹奏楽編成に歌やダンス、語り、照明を加えた舞台表現の追及・研究

到達目標

吹奏楽における合奏能力(チューニング、リズム、ハーモニートレーニング)、アンサンブルテクニクを身に付けます。また、舞台表現の追及やバリエーションを研究し、音楽家としてのコーディネート力、受難な発想力を養い、パフォーマンスを取り入れた舞台芸術表現を身に付けます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	SUMMER BAND FESTIVALの反省・確認 WINTER BAND FESTIVAL へ向けて
第2回	ウインドコンサートの楽曲考案①	楽曲初見練習
第3回	ウインドコンサートの楽曲考案②	楽曲譜読み練習
第4回	ウインドコンサートの構成考案①	楽曲・構成
第5回	ウインドコンサートの構成考案②	楽曲・構成
第6回	音色、バランス、 リズム・テンポ感、フレージング統一	楽曲
第7回	ダイナミクス、バランス、 音程、音形、ハーモニー	楽曲

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では1,2クォーターで身に付けた基礎力を基にし、レパートリーの習得・拡張を身に付ける。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音色の変化、コントラスト、速度変化	楽曲
第2回	速度設定、ニュアンス、 アゴーギク、振付の基本	楽曲・演技
第3回	セクション間のアンサンブル、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第4回	全体アンサンブル、様式感、 楽曲への振付・演技	楽曲・演技
第5回	細部の仕上げ、照明合わせ	総合リハーサル
第6回	演奏・演技の統一、視覚と聴覚の整合 性、照明合わせ	総合リハーサル
第7回	通し練習、総合リハーサル	総合リハーサル
第8回	本番<パリオホール>	WINTER BAND FESTIVAL

学期末試験評価方法

評価方法は、出席50%・係り20%・平常(実技)30%とします。
評価内容は、出席率、係りへの取組の他、受講態度を平常点とし、実技では一年間身に付けた演奏力・演技力を、表現者として聴衆へとアピールすることを評価の対象とする。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	マーチングバンドⅢ	生乃 久法

科目概要

パレードやフロアドリル、ステージドリルを完成させるための技術と知識を学びます。「マーチング指導法」で作成したコンテを用い、指導し、本番までのスケジュールを組み立て、実践的に学んでいきます。

到達目標

パレード・ドリル・ショー・式典依頼に対応できる、フォーメーションやカラーガード(特別講座対応)を作成、指導出来る技術を習得することを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入:オリエンテーション	スタッフ決め・組織作り
第2回	基礎トレーニング①	基礎動作(ウォームアップ・基本トレーニング)
第3回	基礎トレーニング②	基礎動作(個人およびグループでのトレーニング)
第4回	基礎トレーニング③	スカードでの動きを考え、実践
第5回	カラーガード①	カラーガードの基礎トレーニング
第6回	カラーガード②	カラーガード創作①
第7回	カラーガード③	カラーガード創作②

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リハーサルテクニック①	ステージドリル練習①
第2回	リハーサルテクニック②	ステージドリル練習②
第3回	リハーサルテクニック③	ステージドリル練習③
第4回	リハーサルテクニック④	ステージドリル練習④
第5回	授業内発表会	本番までのゲネプロ・運営の実践
第6回	BAND FESTIVALへ向けて①	BAND FESTIVALへ向けてのトレーニング&ミーティング
第7回	BAND FESTIVALへ向けて②	ショーのまとめ
第8回	BAND FESTIVAL	本番

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	マーチングバンドⅣ	生乃 久法

科目概要

パレードやフロアドリル、ステージドリルを完成させるための技術と知識を学びます。「マーチング指導法」で作成したコンテを用い、指導し、本番までのスケジュールを組み立て、実践的に学んでいきます。

到達目標

パレード・ドリル・ショー・式典依頼に対応できる、フォーメーションやカラーガード(特別講座対応)を習得することを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	BAND FESTIVAL反省	反省および、WINTER BAND FESTIVALへの話し合い
第2回	カラーガード④	カラーガード創作③
第3回	カラーガード⑤	カラーガード創作④
第4回	ステージドリル楽曲・合奏(初見)	ステージドリル用楽曲練習①
第5回	ステージドリル楽曲・合奏(譜読み)	ステージドリル用楽曲練習②
第6回	ステージドリル楽曲・合奏	ステージドリル用楽曲練習③
第7回	リハーサルテクニック⑤	ステージドリル練習⑤

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リハーサルテクニック⑥	ステージドリル練習⑥
第2回	リハーサルテクニック⑦	ステージドリル練習⑦
第3回	リハーサルテクニック⑧	ステージドリル練習⑧
第4回	WINTER BAND FESTIVALへ向けて①	BAND FESTIVALへ向けてのトレーニング&ミーティング
第5回	WINTER BAND FESTIVALへ向けて②	ショーのまとめ
第6回	WINTER BAND FESTIVALへ向けて③	照明合わせを含む総合リハーサル
第7回	WINTER BAND FESTIVAL	本番
第8回	反省	映像の鑑賞、スタッフごとの反省、他意見交換

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。またショーの作成について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	管打楽器指導法 I	佐藤 正人

科目概要

1年次の「吹奏楽概論」の続きとしてトランペット、トロンボーン、打楽器を選択し、楽器についての基礎知識を学びます。

2クォーター後半より、管打楽器の合奏知識を研究していきます。

到達目標

各専攻楽器以外に、知識や練習方法論を幅広く、正確に理解しているかを身に付けていきます。またそれらが合奏体となった際に必要とされるテクニックを習得していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	トランペットについて①	構造の異なる金管楽器からトランペットを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第2回	トランペットについて②	構造の異なる金管楽器からトランペットを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第3回	トランペットについて③	構造の異なる金管楽器からトランペットを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第4回	トロンボーンについて①	構造の異なる金管楽器からトロンボーンを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第5回	トロンボーンについて②	構造の異なる金管楽器からトロンボーンを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第6回	トロンボーンについて③	構造の異なる金管楽器からトロンボーンを選択し、歴史・構造・運指・発音を理解し、実際に演奏をします。
第7回	トランペット、トロンボーンについて(試験)	第1回～第6回の内容について、知識は身につけているか、楽器の構造や発音を理解しているか、筆記と演奏で試験をします。

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席60%・試験内容および理解度40%とします。

評価内容は、出席率を過半数に試験結果と毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として、評価対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	打楽器について①	打楽器から膜鳴楽器を選択し、構造・奏法・楽譜の読み方・特徴的なリズム等を学び、実際に演奏をします。
第2回	打楽器について②	打楽器から体鳴楽器を選択し、構造・奏法・楽譜の読み方・特徴的なリズム等を学び、実際に演奏をします。
第3回	打楽器について③	鍵盤打楽器の、構造・奏法・楽譜の読み方等を学び、実際に演奏をします。
第4回	打楽器について(試験)	第1回～第3回の内容について、知識は身につけているか、楽器の構造や発音を理解しているか、筆記と演奏で試験をします。
第5回	管打楽器指導の基礎知識①	指揮台に立つ前に、楽器の点検、姿勢、呼吸法の指導などの基本項目について
第6回	管打楽器指導の基礎知識②	各楽器の練習方法、アンブシュア、ロングトーン音だし等の基本奏法について
第7回	管打楽器指導の基礎知識③	各楽器毎の教則本について
第8回	管打楽器指導の基礎知識④	バンドメソッド研究(3Dハンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCハンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)等)

学期末試験評価方法

評価方法は、出席70%・試験内容および取組を30%とします。

評価内容は、出席率を過半数に試験結果と毎週の内容を次週開始時に復習として、簡単な確認を毎回行うものを理解度として、また後半の合奏では取組姿勢を評価対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	管打楽器指導法Ⅱ	佐藤 正人

科目概要

管・打楽器についての機能及びその指導の仕方、バンドの響きづくり、バンド教本の活用法、アンサンブルに必要な基礎トレーニング(チューニング、バランス、スケール、ハーモニー、リズム)の練習を行い、その方法について学びます。

到達目標

各楽器を理解したうえで合奏体として必要なテクニックを習得していきます。またより効果的な方法も研究し、限られた時間でのトレーニング、リハーサルを身に付けていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バンド指導者としての心得 リハーサルテクニックについて	楽曲スコアアナリーゼ 練習計画・楽曲分析
第2回	各楽器の奏法	個人練習への取り組み 同属楽器(パート)練習
第3回	各楽器の指導法	楽器構造や奏法を踏まえた個人練習の方法
第4回	各楽器のテキスト、資料について	楽器ごとのテキストや資料の研究
第5回	バンドメソッドの効果的活用法①	バンドメソッド(3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)等)効果的練習方法の研究
第6回	バンドメソッドの効果的活用法②	バンドメソッド(3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)等)効果的練習方法の研究
第7回	基礎合奏指導実践	合奏トレーニングの実践

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席70%・合奏実習内容を30%とします。
評価内容は、出席率を過半数とし、合奏実習の取組(準備・内容)を評価の対象とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	吹奏楽運営法①	バンドの基礎知識。週間、月間、年間の活動計画、問題点の解決方法他
第2回	吹奏楽運営法②	団の運営、コンサートを開くまでの知識
第3回	楽曲の指導法①	コラールを使用した練習方法の研究
第4回	楽曲の指導法②	行進曲のスタイルを踏まえたリハーサルの研究
第5回	楽曲の指導法③	ベーシックオリジナル曲を取り上げ、合奏トレーニングの研究
第6回	楽曲の指導法④	個やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、アナリーゼなど合奏の総合的な研究
第7回	楽曲の指導法⑤	リハーサルの練習計画、楽曲分析と表現の工夫。指揮法・表現力・リズム感などより発展的な合奏内容の研究
第8回	合奏指導実践	リハーサルテクニックの実践

学期末試験評価方法

評価方法は、出席70%・合奏実習内容を30%とします。
評価内容は、出席率を過半数とし、合奏実習の取組(準備・内容)を評価の対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	吹奏楽指導法 I	高梨 裕久

科目概要

吹奏楽指導者は何をすべきか、1年次の「吹奏楽概論」を踏まえた上で、合奏全体のトレーニング方法(チューニング・バランス・スケール・ハーモニー・リズム)を基礎合奏メソッドを使用しながら学びます。

到達目標

指導現場で起こる様々な状況に臨機応変に対応するために、合奏テクニック(トレーニング)や各楽器、合奏の知識を習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	基礎合奏教材、コラル曲目、合奏担当についての確認
第2回	基礎合奏メソッド研究①	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(講師合奏)
第3回	基礎合奏メソッド研究②	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(講師合奏)
第4回	基礎合奏メソッド研究③	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(講師合奏)
第5回	基礎合奏メソッド研究④	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(講師合奏)
第6回	スコアの作成①	コンテンススコアからフルスコアへ転記し、スコアの書き方や音域の確認等を学んでいきます。
第7回	スコアの作成②提出	コンテンススコアからフルスコアへ転記した完成形を提出します。

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席70%・スコア提出内容を30%とします。
評価内容は、出席率を過半数とし、後半で取り組んだ音域表が正しく書けているか(理解)を評価対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏使用教材について	ハーモニーディレクター、チューナー、外ロームの活用法を理解していきます。
第2回	バンド指導の基礎知識①	木管楽器のアンプシユアのチェック方法を合奏メソッドやハーモニーディレクターを用いながら理解していきます。
第3回	バンド指導の基礎知識②	金管楽器のアンプシユアのチェック方法を合奏メソッドやハーモニーディレクターを用いながら理解していきます。
第4回	基礎合奏から楽曲へ①	基礎合奏での統一を、楽曲でどのように生かしていくか、コラルを使用し学んでいきます。
第5回	基礎合奏から楽曲へ②	基礎合奏での統一を、楽曲でどのように生かしていくか、簡単な楽曲を使用し学んでいきます。
第6回	小編成バンドの効果的なアレンジ①	少子化によるスクールバンドの小編成化に合わせ、より効果的なアレンジを研究
第7回	小編成バンドの効果的なアレンジ②	少子化によるスクールバンドの小編成化に合わせ、より効果的なアレンジを研究し、スコアを提出します。
第8回	小編成バンドの効果的なアレンジ③提出	少子化によるスクールバンドの小編成化に合わせ、より効果的なアレンジを研究し、スコアを提出します。

学期末試験評価方法

評価方法は、出席70%・スコア提出内容を30%とします。
評価内容は、出席率を過半数とし、後半で取り組んだアレンジスコアの内容を評価対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	吹奏楽指導法Ⅱ	高梨 裕久

科目概要

吹奏楽指導者は何をすべきか、1年次の「吹奏楽概論」を踏まえた上で、合奏全体のトレーニング方法(チューニング・バランス・スケール・ハーモニー・リズム)を基礎合奏メソッドを使用しながら学びます。

到達目標

指導現場で起こる様々な状況に臨機応変に対応するために、合奏テクニック(トレーニング)や各楽器、合奏の知識を習得します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎合奏メソッドの合奏実践①	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(学生合奏)
第2回	基礎合奏メソッドの合奏実践②	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(学生合奏)
第3回	基礎合奏メソッドの合奏実践③	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(学生合奏)
第4回	基礎合奏メソッドの合奏実践④	3Dバンドブック、TIPPS、トレジャーオブスケール、JBCバンドスタディ(ヤマハミュージックメディア)、シンフォニックバンドテクニック(サザンミュージック)等の研究(学生合奏)
第5回	基礎合奏の実践(試験)	これまで取り上げた基礎合奏メソッドから、1人ずつ実習形式で試験を行います。
第6回	基礎合奏の実践(試験)	これまで取り上げた基礎合奏メソッドから、1人ずつ実習形式で試験を行います。
第7回	基礎合奏の実践(試験)	これまで取り上げた基礎合奏メソッドから、1人ずつ実習形式で試験を行います。

クォーター末試験評価方法

評価方法は、出席70%・合奏実習内容を30%とします。
評価内容は、出席率を過半数とし、合奏実習の取組(準備・内容)を評価の対象とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲合奏①	講師補助のもと、学生指揮者による合奏を行います。
第2回	楽曲合奏②	講師補助のもと、学生指揮者による合奏を行います。
第3回	楽曲合奏③	講師補助のもと、学生指揮者による合奏を行います。
第4回	楽曲合奏④	学生指揮者による合奏を行います。
第5回	楽曲合奏⑤	学生指揮者による合奏を行います。
第6回	ゲネプロ①	学生指揮者によりゲネプロ形式で合奏と進行を行います。
第7回	ゲネプロ②	学生指揮者によりゲネプロ形式で合奏と進行を行います。
第8回	本番	学生指揮者による本番演奏

学期末試験評価方法

評価方法は、出席70%・合奏実習内容を30%とします。
評価内容は、出席率を過半数とし、合奏実習の取組(準備・内容)を評価の対象とします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	マーチング指導法 I	生乃 久法

科目概要

マーチングバンドの活動・教育的意義、基本から応用動作等、またPCを使用したコンテ作成を年間通して学んでいきます。

到達目標

一般社団法人日本マーチングバンド指導者協会2級ライセンスの取得を目指す。
また幅広い指導を実施できるよう、技術・知識を習得する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入、基本動作①	授業内容の説明など、基本動作を学ぶ
第2回	基本動作②	T字の取得と効果的な練習方法
第3回	コンビネーション①	ピンフィール・トリックスピン・フォローザリーダー
第4回	コンビネーション②	ピンフィールセンター・オブブリーク・クロス
第5回	ドラムメジャー①	メジャーバトンの基本操作方法
第6回	ドラムメジャー②	パレード時のサイン
第7回	指導法研究①	マーチングの指導法について

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	指導法研究②	マーチングの指導法について
第2回	ペーパーレーニング①	2級ライセンス受験の心得
第3回	ペーパーレーニング②	2級ライセンス受験にあたり、試験内容の確認
第4回	2級ライセンス検定	2級ライセンス検定実施
第5回	指導案作成	基本動作講習の指導の組み立て、指導案作成
第6回	指導実践①	指導案を基に指導の実践を行う
第7回	指導実践②	指導案を基に指導の実践を行う
第8回	指導法検定①	基本動作の指導を発表する

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	マーチング指導法Ⅱ	生乃 久法

科目概要

マーチングバンドの活動・教育的意義、基本から応用動作等、またPCを使用したコンテ作成を年間通して学んでいきます。

到達目標

幅広い指導を実施できるよう、技術・知識を習得する。
また大会の運営・マーチングバンド運営に必要な知識を習得する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	企画・構成①	ショーの企画構成について
第2回	企画・構成②	ショーの企画構成について
第3回	企画・構成③	ショーの企画構成について
第4回	カラーガード①	フラッグ応用操作方法
第5回	カラーガード②	フラッグ応用操作方法
第6回	カラーガード③	フラッグ応用操作方法
第7回	カラーガード④	創作・発表

クォーター末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	構成と演出①	ショーの構成と演出について
第2回	構成と演出②	ショーの構成と演出について
第3回	構成と演出③	ショーの構成と演出について
第4回	構成と演習④	ショーの構成と演出について
第5回	指導案作成②	基本動作講習の指導の組み立て、指導案作成
第6回	指導実践③	指導案を基に指導の実践を行う
第7回	指導実践④	指導案を基に指導の実践を行う
第8回	指導法検定②	基本動作の指導を発表する

学期末試験評価方法

積極的に授業に参加し、マーチングを研究しようという意思が現れているか。また合奏・楽曲について正しい知識を身に付けられたか、マーチングに対し広い考えを持っているか、それが発表に成果として現れたかを評価の対象とします。

(出席90%、授業内評価10%)

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	コンピュータミュージック I	笠原 康弘

科目概要

1クォーターでは、基本的入力方法、エディット方法を学習します。2クォーターでは、MIDIに加えてオーディオデータの編集を学び、自作の楽曲制作に生かします。

到達目標

CUBASEの基本操作を学習します。既存の楽譜とほぼ同様の楽譜を入力できるようにする事が目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベーシックレビュー	基本知識の再チェック。
第2回	CUBASEに関するレビュー	各エディットウィンドウでの操作方法、MIDIデータの読み込みなど
第3回	様々なファイルフォーマット	SMFその他フォーマットについて
第4回	ミキシングの基礎知識	ミキサーウィンドウについて
第5回	パッチエディット	シンセサイザーの基本と音色のエディット
第6回	入力への応用	既存の楽曲を入力する。
第7回	課題曲の制作	最終データを提出します。

クォーター末試験評価方法

パソコンや、シーケンサーに1時間でも長く触り、慣れる必要があることから、特に出席を重視します。課題曲は授業で行った方法に則しているかどうかをチェックします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーディオへの変換への流れについて	MIDIとの相違点
第2回	打ち込みデータの変換。	書き出しのプロセス
第3回	オーディオデータを楽曲の一部に使用	サンプルデータの読み込み
第4回	音源をオーディオ出力しCUBASEで使用	パートごとのオーディオ変換
第5回	保存方法、ミックスダウンの方法等。	ミックスの基礎
第6回	自由曲を入力	個々の学生の問題点を解消
第7回	自由曲を入力	個々の学生の問題点を解消
第8回	最終データを提出します。	学期末試験

学期末試験評価方法

パソコンや、シーケンサーに1時間でも長く触り、慣れる必要があることから、特に出席を重視します。課題曲は授業で行った方法に則しているかどうかをチェックします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	コンピュータミュージックⅡ	笠原 康弘

科目概要

3クォーターでは、様々なVSTiを使用して更にクオリティーの高いデータを目指します。4クォーターでは、エフェクター等の詳細を学習し、データの完成度をアップするための方法を学習します。Eの基本的操作方法を学習します。

到達目標

CUBASEの基本操作を学習します。既存の楽譜とほぼ同様の楽譜を入力できるようにする事が目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ソフト音源	VSTiの使用法
第2回	ソフト音源	VSTiの使用法
第3回	ソフト音源	プラグインについて、その他の音源の使用
第4回	ミックスダウン	オーディオ、MIDIトラックのミックスダウン
第5回	オリジナル曲の制作	オリジナル楽曲を制作します。
第6回	オリジナル曲の制作	オリジナル楽曲を制作します。
第7回	オリジナル曲の制作	最終データを提出します。

クォーター末試験評価方法

授業で行った方法に沿って入力されているかをチェックします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エフェクトテクニック1	様々なエフェクターについての解説と使用法。
第2回	エフェクトテクニック2	様々なエフェクターについての解説と使用法。
第3回	アレンジテクニック1	和声、理論の観点から見たアレンジ
第4回	アレンジテクニック2	ブラスのソリ
第5回	アレンジテクニック3	トランスポーズ機能を使用したボーシングの方法
第6回	自由曲の制作1	各種シミュレーションテクニックを使用して、自由曲を制作します。
第7回	自由曲の制作2	各種シミュレーションテクニックを使用して、自由曲を制作します。
第8回	自由曲の制作3	最終データを提出します。

学期末試験評価方法

授業で行った方法に沿って入力されているかをチェックします。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	アンサンブルA I (同族)	福島弘和 山岡 潤 増田博之

科目概要

いろいろな音楽スタイルを学び、アンサンブルの全体像を理解した上でアレンジや演奏法について考えます。その中で各パートの役割や関連についても学びながらジャンルの拡大を目指します。
毎日の基礎練習パターンやスコアリーディングで習った内容の音出しは毎回の授業で行います。

到達目標

いろいろなコードを確認した上で、in C譜からベースライン、メロディーライン、ハーモニーパートを構築し、楽器編成に合わせたアンサンブル譜を作成して演奏します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	コード①	主要3和音・コードのしくみ
第3回	コード②	ダイアトニックコード・トライアド
第4回	コード③・ビート①	7thコード・ボサノバのリズムでコードを動かす
第5回	コード④	m7thコード・ベースラインについて
第6回	コード⑤・アレンジ①	m7thコード・1コーラス分のアンサンブルを作る
第7回	テスト	アンサンブルの発表

クォーター末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	in Cの譜面を読む	簡単なピアノ譜を使い、それぞれの声部に分かれて演奏する(音名の書き込みはしない。)
第2回	コードからベースラインを作る	コード(in C)からルート音を読み取り、リズムパターンを考えベースラインを構成する。メロディー、ハーモニーパートと共に演奏する
第3回	オブリガートを作る	in Cのメロディー譜を見ながら、3度上又は下の音を演奏するコードに照らし合わせて正しい音を選ぶ
第4回	リズム伴奏パターンを作る	ハーモニーパートにリズムをつけ、伴奏パターンを作る
第5回	発表に向けて①	クォーター末発表会で演奏する曲を決め、構成、アレンジを固める
第6回	発表に向けて②	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第7回	発表に向けて③	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第8回	発表会	合同発表会

学期末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	アンサンブルAⅡ(同族)	福島弘和 山岡 潤 増田博之

科目概要

いろいろな音楽スタイルを学び、アンサンブルの全体像を理解した上でアレンジや演奏法について考えます。その中で各パートの役割や関連についても学びながらジャンルの拡大を目指します。
毎日の基礎練習パターンやスコアリーディングで習った内容の音出しは毎回の授業で行います。

到達目標

ブルースノートスケール、ペントニックスケールを使ったアドリブを含めたオリジナルアンサンブル譜を制作して、発表会で演奏します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アドリブ(ブルース)	12小節のブルース進行の上でブルースノートスケールを使い1人ずつ演奏する
第2回	アドリブ(ペントニック)	ペントニックスケール(4,7抜き音階)を使い即興でメロディーを構築する
第3回	4ビートジャズ	テーマ～アドリブ～テーマの構成を理解し4ビートのベースラインとアドリブソロを構築する
第4回	ラテン	ボサノバのリズムパターンを用いてテーマ～アドリブ～テーマの構成で1曲仕上げる
第5回	発表会に向けて	クォーター末発表会で演奏する曲を決め、構成、アレンジを固める
第6回	発表会に向けて	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第7回	発表会	クラスごとの発表

クォーター末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリジナルアレンジ制作①	I～Ⅲクォーターをふまえ、任意で選んだ楽曲をオリジナルアレンジ制作する
第2回	オリジナルアレンジ制作②	I～Ⅲクォーターをふまえ、任意で選んだ楽曲をオリジナルアレンジ制作する
第3回	オリジナルアレンジ制作③	I～Ⅲクォーターをふまえ、任意で選んだ楽曲をオリジナルアレンジ制作する
第4回	発表会に向けて①	クォーター末発表会で演奏する曲を決め、構成、アレンジを固める
第5回	発表会に向けて②	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第6回	発表会に向けて③	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第7回	発表会に向けて④	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第8回	発表会	合同発表会

学期末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
春	アンサンブルB I (ポップス)	熱田公紀

科目概要

いろいろな音楽スタイルを学び、アンサンブルの全体像を理解した上でアレンジや演奏法について考えます。その中で各パートの役割や関連についても学びながらジャンルの拡大を目指します。
毎日の基礎練習パターンやスコアリーディングで習った内容の音出しは毎回の授業で行います。

到達目標

いろいろなコードを確認した上で、in C譜からベースライン、メロディーライン、ハーモニーパートを構築し、楽器編成に合わせたアンサンブル譜を作成して演奏します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明
第2回	コード①	主要3和音・コードのしくみ
第3回	コード②	ダイアトニックコード・トライアド
第4回	コード③・ビート①	7thコード・ボサノバのリズムでコードを動かす
第5回	コード④	m7thコード・ベースラインについて
第6回	コード⑤・アレンジ①	m7thコード・1コーラス分のアンサンブルを作る
第7回	テスト	アンサンブルの発表

クォーター末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	in Cの譜面を読む	簡単なピアノ譜を使い、それぞれの声部に分かれて演奏する(音名の書き込みはしない。)
第2回	コードからベースラインを作る	コード(in C)からルート音を読み取り、リズムパターンを考えベースラインを構成する。メロディー、ハーモニーパートと共に演奏する
第3回	オブリガートを作る	in Cのメロディー譜を見ながら、3度上又は下の音を演奏するコードに照らし合わせて正しい音を選ぶ
第4回	リズム伴奏パターンを作る	ハーモニーパートにリズムをつけ、伴奏パターンを作る
第5回	発表に向けて①	クォーター末発表会で演奏する曲を決め、構成、アレンジを固める
第6回	発表に向けて②	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第7回	発表に向けて③	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第8回	発表会	合同発表会

学期末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。

管弦打楽器学科

学期	科目名	担当講師
秋	アンサンブルBⅡ(ポップス)	熱田公紀

科目概要

いろいろな音楽スタイルを学び、アンサンブルの全体像を理解した上でアレンジや演奏法について考えます。その中で各パートの役割や関連についても学びながらジャンルの拡大を目指します。
毎日の基礎練習パターンやスコアリーディングで習った内容の音出しは毎回の授業で行います。

到達目標

ブルースノートスケール、ペントニックスケールを使ったアドリブを含めたオリジナルアンサンブル譜を制作して、発表会で演奏します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アドリブ(ブルース)	12小節のブルース進行の上でブルースノートスケールを使い1人ずつ演奏する
第2回	アドリブ(ペントニック)	ペントニックスケール(4,7抜き音階)を使い即興でメロディーを構築する
第3回	4ビートジャズ	テーマ～アドリブ～テーマの構成を理解し4ビートのベースラインとアドリブソロを構築する
第4回	ラテン	ボサノバのリズムパターンを用いてテーマ～アドリブ～テーマの構成で1曲仕上げる
第5回	発表会に向けて	クォーター末発表会で演奏する曲を決め、構成、アレンジを固める
第6回	発表会に向けて	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第7回	発表会	クラスごとの発表

クォーター末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリジナルアレンジ制作①	I～Ⅲクォーターをふまえ、任意で選んだ楽曲をオリジナルアレンジ制作する
第2回	オリジナルアレンジ制作②	I～Ⅲクォーターをふまえ、任意で選んだ楽曲をオリジナルアレンジ制作する
第3回	オリジナルアレンジ制作③	I～Ⅲクォーターをふまえ、任意で選んだ楽曲をオリジナルアレンジ制作する
第4回	発表会に向けて①	クォーター末発表会で演奏する曲を決め、構成、アレンジを固める
第5回	発表会に向けて②	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第6回	発表会に向けて③	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第7回	発表会に向けて④	発表会での演奏曲の仕上げと練習
第8回	発表会	合同発表会

学期末試験評価方法

出席率、取り組み、曲の完成度、演奏者としてのマナー等を評価します。